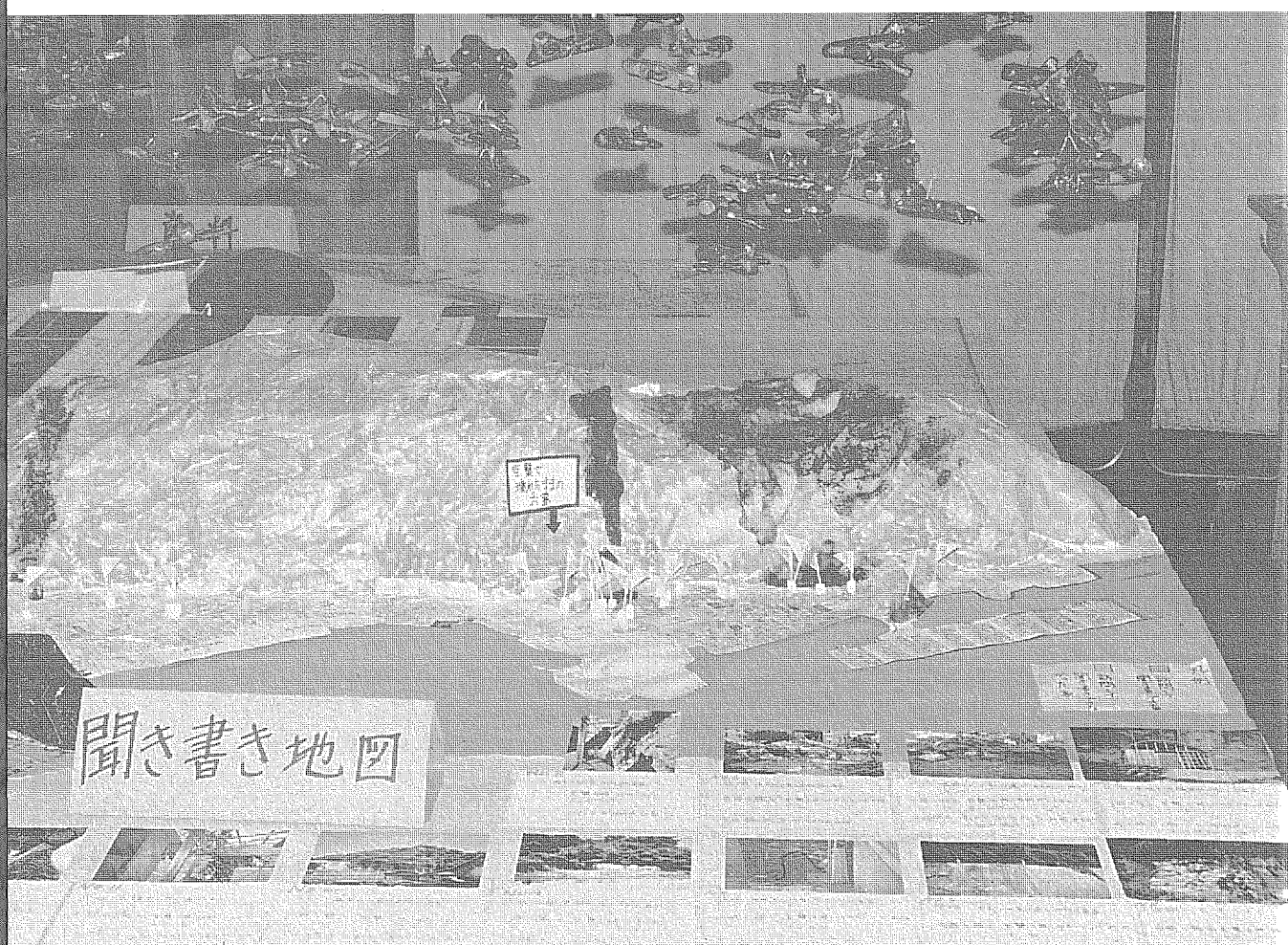


受け継ごう50年目の平和を

—長浜・小坪の〔第二次大戦体験〕聞き書き—



呉市立長浜中学校

は　　じ　　め　　に

呉市立長浜中学校

校長 西村 忠顕

呉市立長浜中学校は、広島県南西部の瀬戸内海に面した呉市広町の長浜・小坪地区にあります。第二次大戦以前、呉市は、鎮守府設置によって飛躍的に拡大していった軍都でした。本校のすぐ近くにも第11海軍航空廠が置かれ、勤労働員や学徒動員の方達が全国から集められ、兵器の開発・製造に従事していました。そのため、空襲は熾烈を極め、第二次大戦下の生活を一層悲惨なものとししました。しかし、敗戦から50年を経た現在、その事実を知っている中学生はほとんどいないのが実情です。

この冊子は、映画「ベトナムのダーちゃん」の鑑賞・学習をきっかけに、「自分達が生まれ育った町で、第二次大戦中何があったのか。地域の方々の戦争体験と戦争への思いを知りたい。そして、それを受け継ぎたい。」という生徒達の抑えがたい衝動から生まれました。渇水に砂ぼこりの舞う暑い夏の日々、生徒達は汗を流しながら「第二次大戦体験の聞き書き」をするためにおずおずと地域を回り始めました。そして、戦争を体験された方々の、予想もしなかった重く深い様々な思いを初めて知り、驚き、打たれ、絶句しました。

それ以後、秋の深まる文化祭まで、一心に「聞き書き」の整理・学習を行い、展示の準備を進めたのは、「大切なものを自分達に託された」という実感でした。このような出会いによって集められた「聞き書き」を記録として残すことは、敗戦後50年目を迎え、戦争を体験された方々の高齢化と共に戦争の記憶が消えようとしている今日、非常に意味あるものであると信じます。

目

次

はじめに

●「第二次大戦体験の聞き書き」の概要	3
1 新聞記事にまとめられた概要	
2 聞き書きの概要	
3 聞き書き地図	
4 「聞き書き地図」にある防空壕等	
5 概要の詳細	
●空襲	24
1 広・長浜・小坪最大の空襲	
2 5月5日の被害の程度	
3 空襲のときの様子・気持ち	
4 呉軍港防空体制	
●日々の生活	32
1 新聞記事からわかる日々の生活	
2 生活の仕方	
3 つらかったこと	
4 楽しかったこと	
●衣食住	40
1 衣生活	
2 食生活	
3 住生活	
●敗戦直後	49
●生活用語	51
●年表	60
●生徒感想文から	64
●資料	69
1 「聞き書き」で提供していただいた貴重な資料	
2 「聞き書き」に協力してくださった方々	

おわりに

●「第二次大戦体験の聞き書き」の概要

1. 新聞記事にまとめられた概要

1994年(平成6年)11月16日

水曜日

享月

日

聞き書きで空襲を再現

呉の長浜
中学校 立体模型で臨場感

呉市広長浜四丁目、長浜中学校(西村忠顕校長)の二年生六十一人が校区内のお年寄り百三十一人に太平洋戦争中の空襲の模様など聞き、立体模型や食事、服装をつくって当時を再現した。「受け継ごう五十年目の平和を」と題し、十六日の文化祭で発表する。

生徒は夏休みに手分けして校区内のお年寄り宅を回った。質問は衣食住と空襲など。学校を中心とした地区を千五百分の一の立体模型にして、防空壕(ごう)を示した。全部で五十カ所が判明し、道路ぎわが二十八カ所、海岸八カ所、神社六カ所などとなっている。

同校区は瀬戸内海に面した長浜、小坪地区。近くに旧広海軍工廠(しょう)があり、米軍機の進入経路の下にあたっていた。空襲の米軍機は百二十機という記録があり、紙粘土でつくった同数の模型機をつるし、臨場感を高めた。今も残る銃弾の跡や空襲で半壊した鳥居や墓を調べ、写真に撮った。

証言から「子供かちどき部隊」という戦争中の募金用の竹筒も再現された。筒には子どもの名前を書き、数本ずつ町内に置いて、子どもの小遣いを国防献金に回すように呼びかけたという。防空ずきん、もんぺや

すいとん、芋のツルの煮込みなど当時の生活用品、食事も実際につくり、歴史を追体験し、平和を実感した。

2. 聞き書きの概略

- | | |
|---------------|------------------------|
| 1. 聞き書きした日時 | 1994(平成6)年 7月20日～8月31日 |
| 2. 聞き書きした生徒 | 呉市立長浜中学校 第二学年 61名 |
| 3. 訪問した家 | 204件 |
| 4. 聞き書きできた家 | 131件 |
| 5. 聞き書きした合計時間 | 101時間57分 |

年 令

7. 兵隊になっていた人 86人

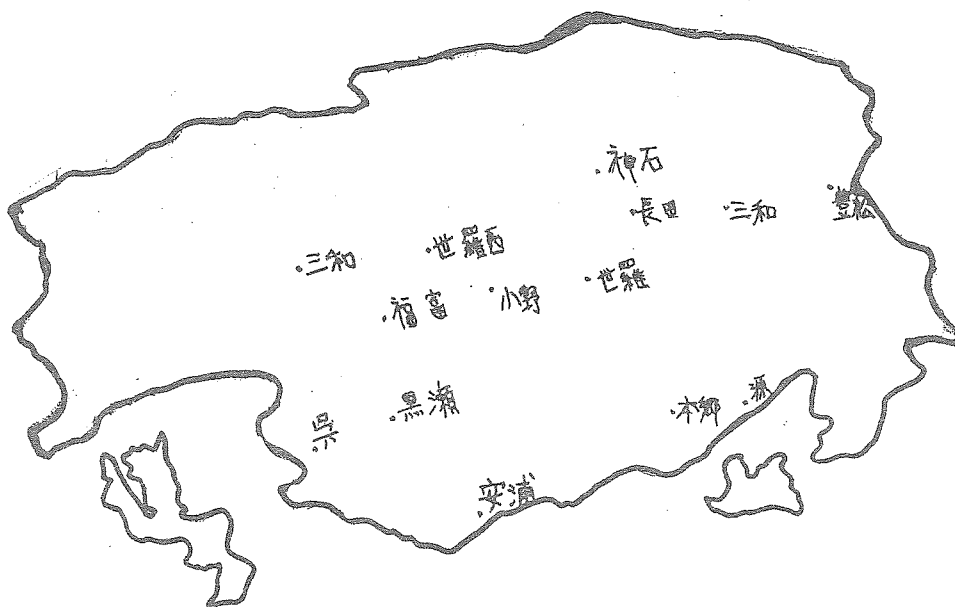
Hand-drawn map of East Asia and Southeast Asia with handwritten labels for various countries and regions, and the number of people from each. The map includes labels for Russia (ロシア), Korea (朝鮮), China (中国), Taiwan (台湾), Japan (日本), Philippines (フィリピン), Indonesia (インドネシア), Malaysia (マレーシア), and Australia (オーストラリア). Specific locations like Seoul (ソウル), Tokyo (東京), and Osaka (和歌山) are also marked. The number of people from each location is written next to the label.

Location	Number of People
ロシア	4人
朝鮮	2人
中国	33人
台湾	9人
日本 (函館)	1人
日本 (横須賀)	4人
日本 (千葉)	2人
日本 (東京)	1人
日本 (和歌山)	1人
日本 (沖縄)	1人
フィリピン	1人
マレーシア	1人
インドネシア	7人
オーストラリア	3人

9. 疎開していた人

21人

10. 疎開した場所



11. 戦争のために

死んだ人

19人

12. 戦争のために

けがをした人

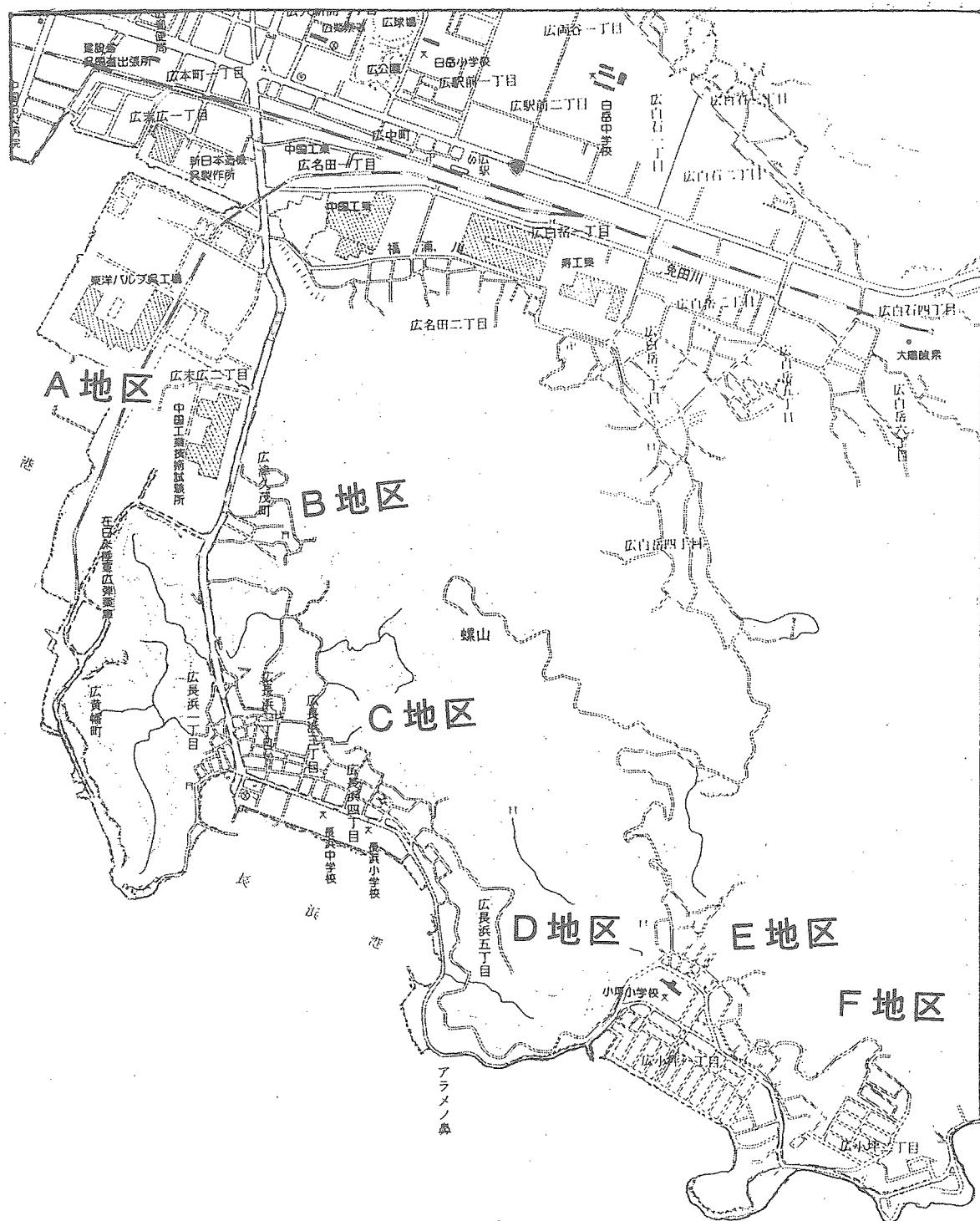
10人

13. 防空壕の数

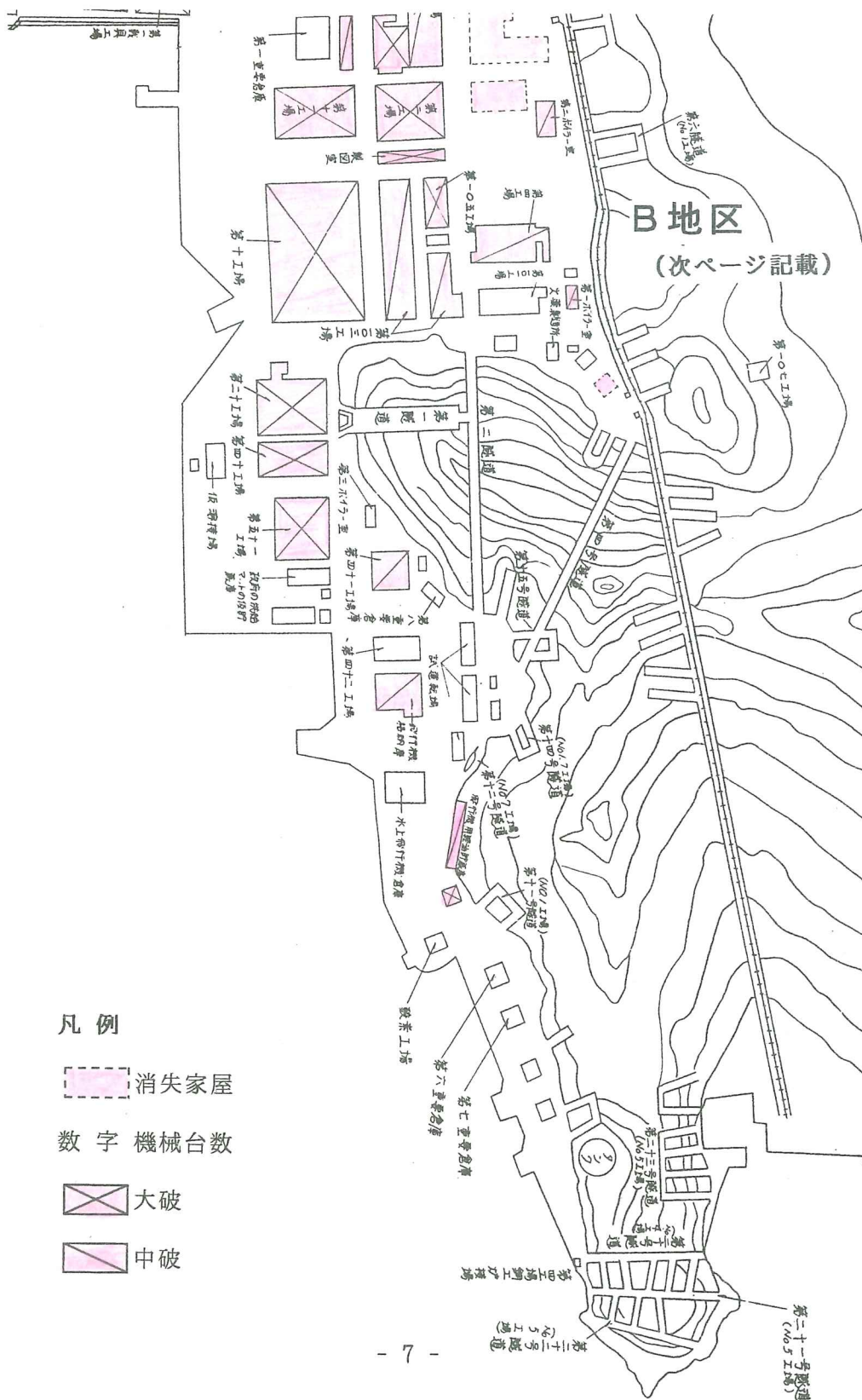
場 所	個 数
道路沿いの山	28個
家	4個
山	3個
海 岸	8個
神 社、宮	4個
学 校	1個

3. 聞き書き地図

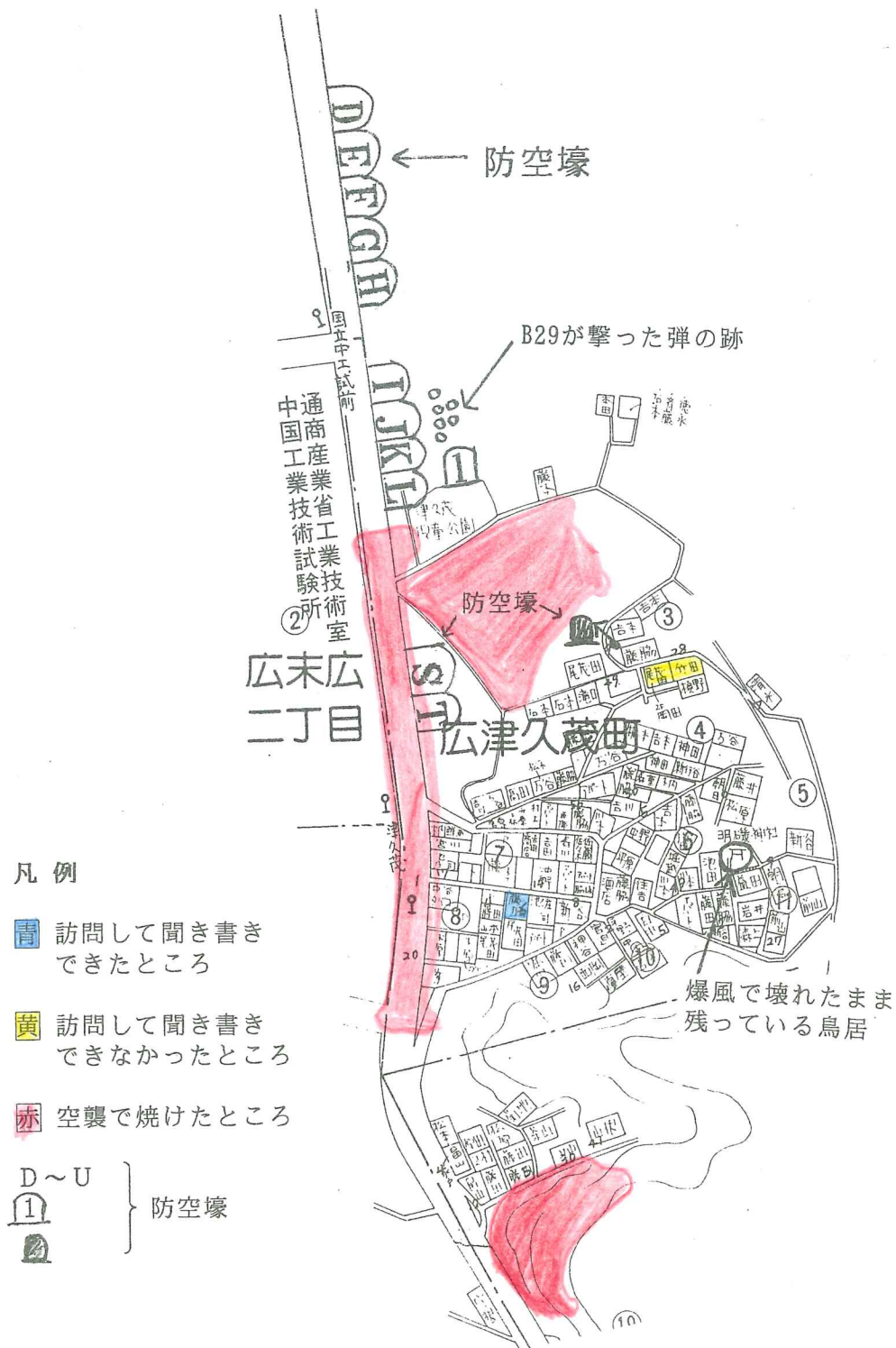
◆長浜中学校付近の全体地図



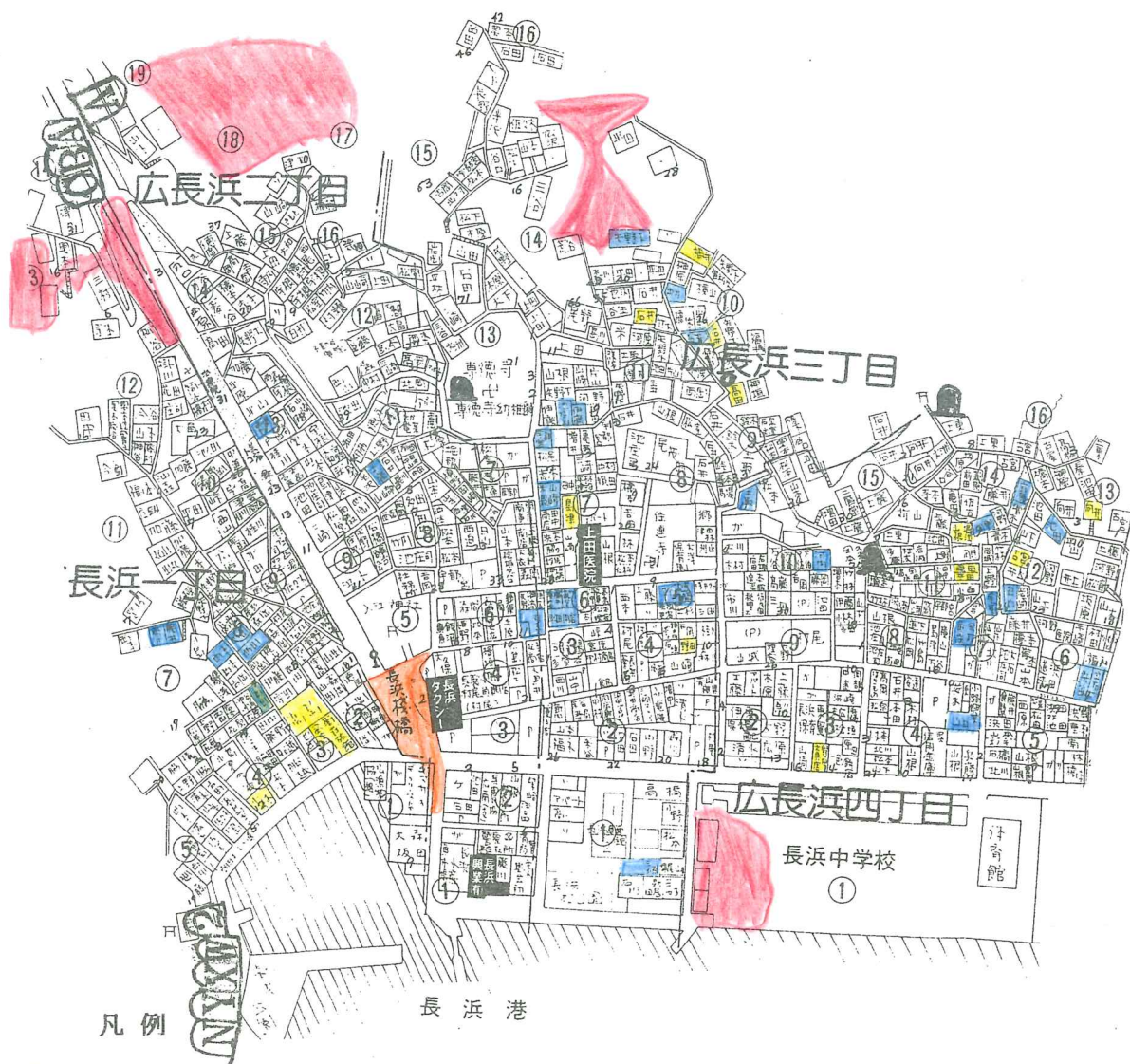
◆A（黄幡）地区…旧第11海軍空廠があった



◆B（津久茂）地区



◆C（長浜1～4丁目）地区



凡例

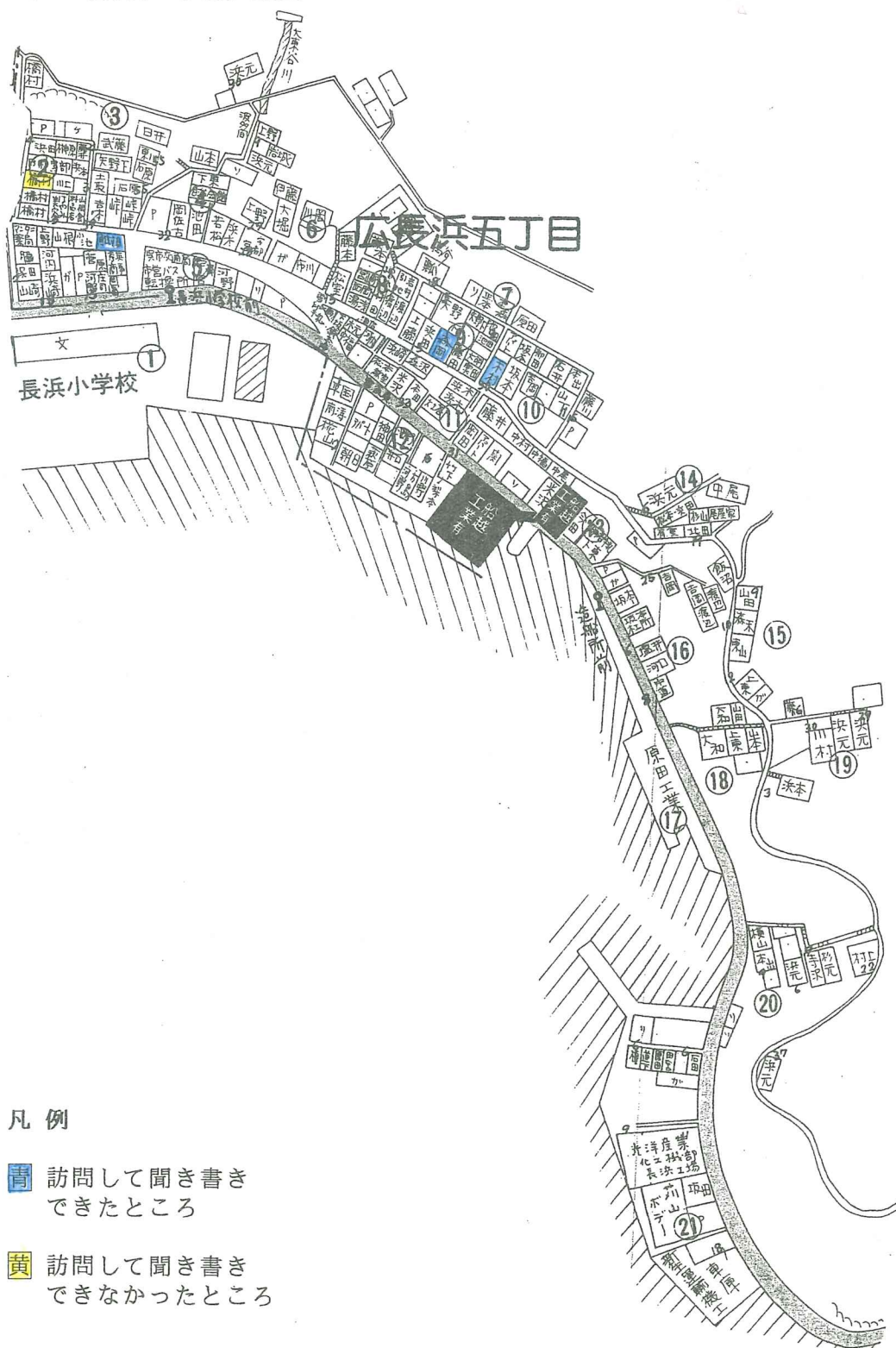
■ 訪問して聞き書き
できたところ

■ 訪問して聞き書き
できなかったところ

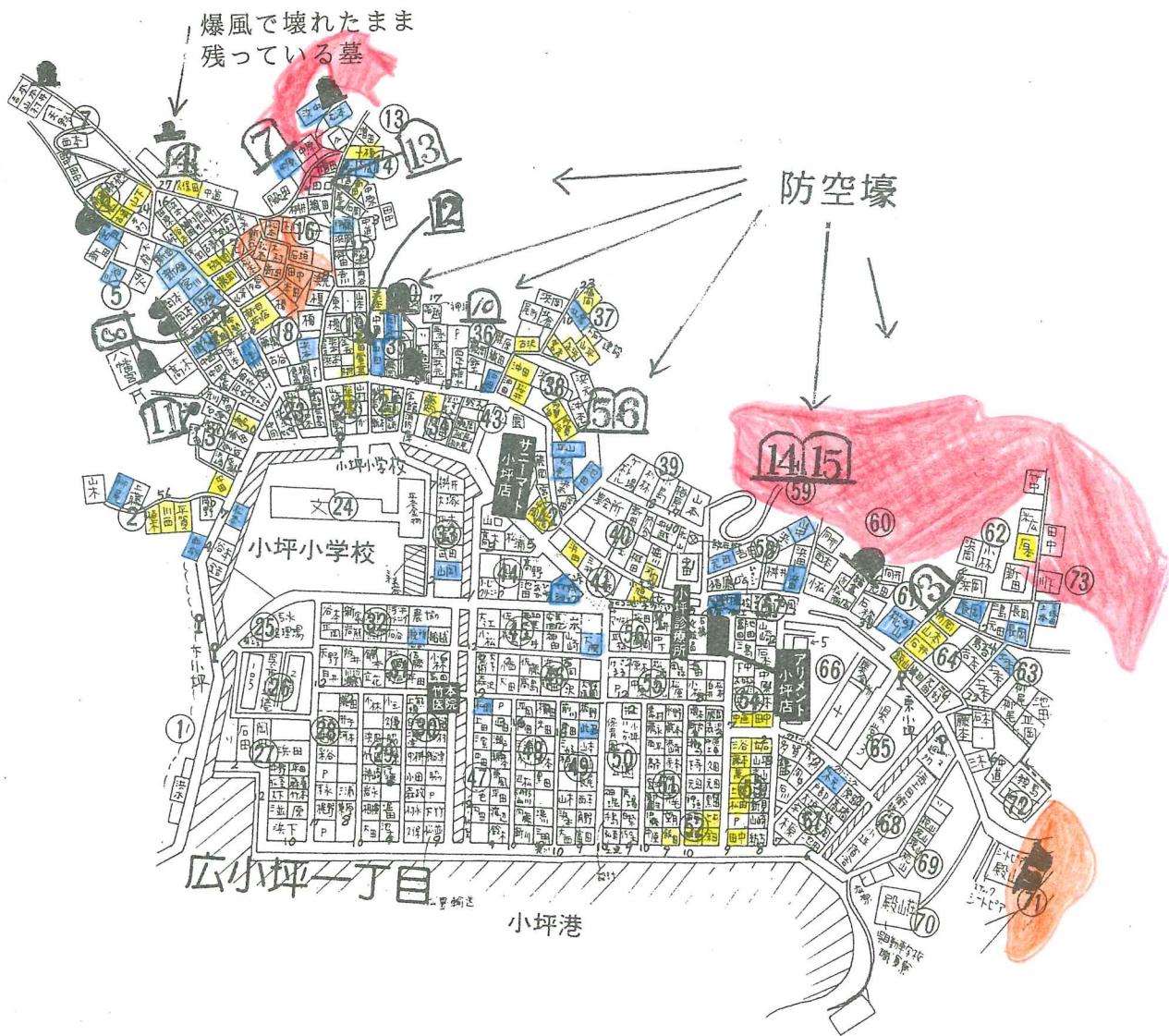
■ 空襲で焼けたところ

A～C, V～Z
2 } 防空壕

◆D（長浜5丁目）地区



◆E（小坪1丁目）地区…小学校より海側は戦後埋め立て地



凡 例

青 訪問して聞き書き
できたところ

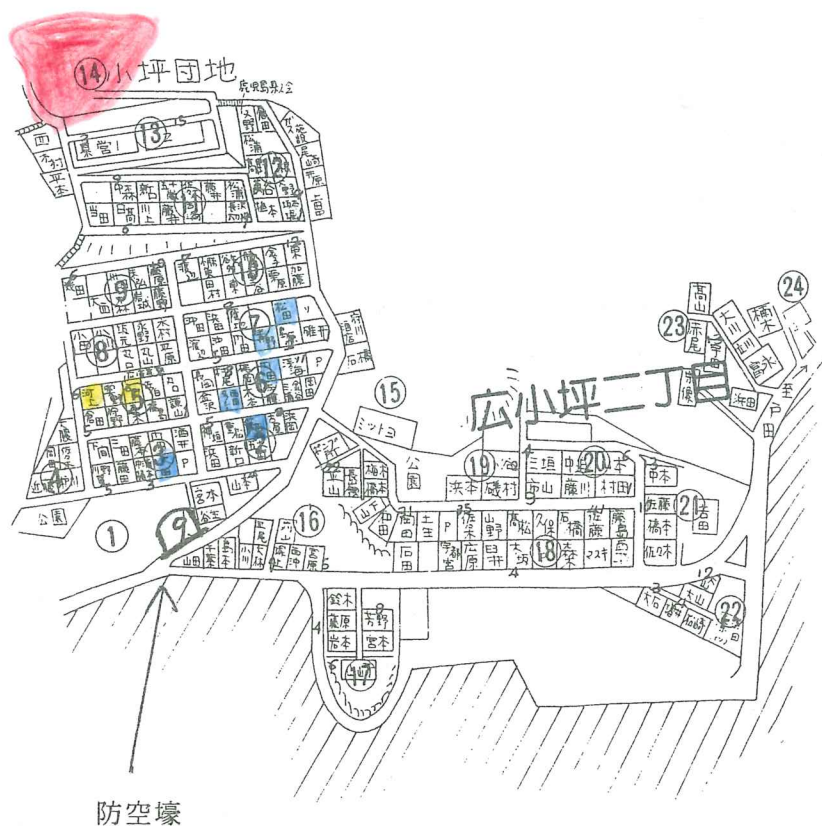
黄 訪問して聞き書き
できなかったところ

赤 空襲で焼けたところ

3 ~ 8, 10 ~ 15 防空壕

[illegible]

◆F（小坪2丁目）地区…戦後の新興住宅団地

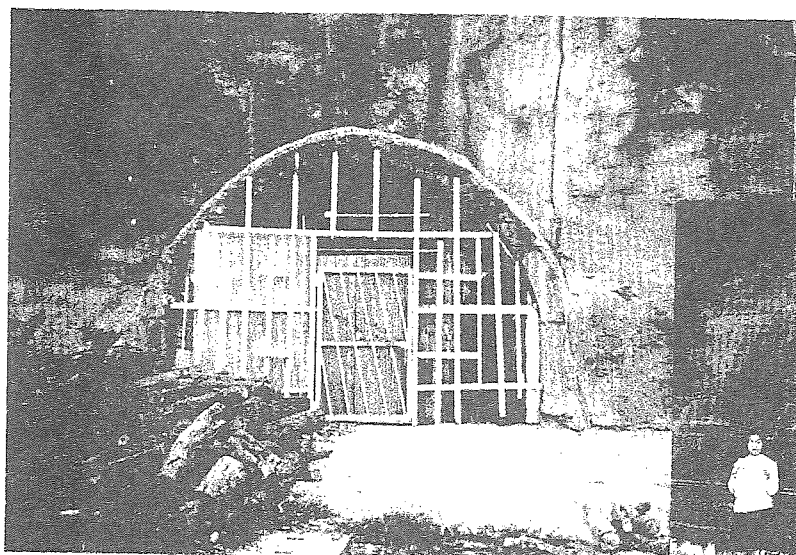


凡 例

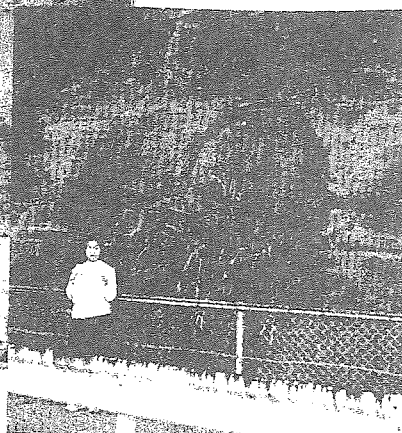
- 青 訪問して聞き書き
できたところ
- 黄 訪問して聞き書き
できなかったところ
- 赤 空襲で焼けたところ

4. 「聞き書き地図」にある防空壕等

◆道路沿いの山にある防空壕



B地点



M地点



W地点



E地点

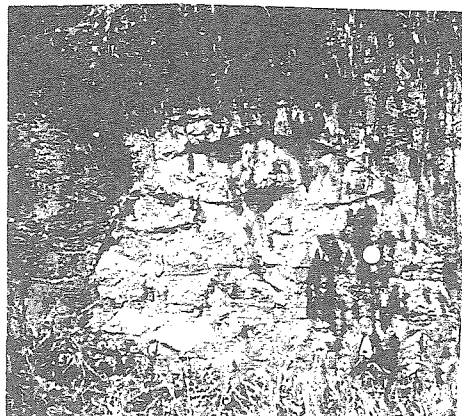
記号	説明	当時の様子	今の様子
A	長浜峠付近の道路西側にある	空襲の時この中にかくれていた	大きな石や草でふさがっている

記号	説 明	当時の様子	今の様子
B	長浜峠付近の道路西側にある	空襲の時この中にかくれていた	大きな石や草でふさがっている
C	長浜峠付近の道路西側にある	空襲の時この中にかくれていた	車庫になっている
D	新王子製紙前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくれていた	フェンスで入口がふさいである
E	新王子製紙前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくれていた	フェンスでふさいである
F	新王子製紙前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくれていた	半分コンクリートで半分フェンスでふさがれている
G	新王子製紙前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくれていた	荒地地になっている
H	新王子製紙前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくれていた	コンクリートでふさがれている
I	新王子製紙前の道路の山側にある	第一変電所	コンクリートでふさがれている
J	新王子製紙前の道路の山側にある	第一変電所	コンクリートでふさがれている
K	新王子製紙前の道路の山側にある	第一変電所	コンクリートでふさがれている

記号	説 明	当時の様子	今の様子
L	新王子製紙前の道路の山側にある	第一変電所	コンクリートでふさがれている
M	新王子製紙前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくれていた	コンクリートでふさがれている
N	新王子製紙前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくれていた	コンクリートでふさがれている
O	中国工業研究所前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくれていた	コンクリートでふさがれている
P	中国工業研究所前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくれていた	コンクリートでふさがれている
Q	中国工業研究所前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくれていた	コンクリートでふさがれている
R	中国工業研究所前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくれていた	コンクリートでふさがれている
S	中国工業研究所前の道路の山側にある	No 1 工場	コンクリートでふさがれている
T	中国工業研究所前の道路の山側にある	No 1 工場	コンクリートでふさがれている
U	黄播米軍基地前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくれていた	物が置いてあって入れないようになっている

記号	説 明	当時の様子	今の様子
V	長浜峠付近の道路東側にある	空襲の時この中にかくれていた	石が積んであつて入れないようになっている
W	長浜三角浜公園前の道路の山側にある	N o 5 工場	鍵があつて入れないようになっている
X	長浜三角浜公園前の道路の山側にある	N o 5 工場	鍵があつて入れないようになっている
Y	長浜三角浜公園前の道路の山側にある	N o 5 工場	トタン板で入れないようになっている
Z	長浜三角浜公園前の道路の山側にある	N o 5 工場	コンクリートでふさがれている

◆庭や家の近くにある防空壕



1 地点



6 地点

記号	説 明	当時の様子	今の様子
1	津久茂公園のブランコの後ろにある	空襲の時この中に入っ てかくれていた	大きな石でうめている
2	長浜の西脇神社の近く にある	空襲の時この中に入っ てかくれていた	中にいろんな物が入っ ていて倉庫として使わ れている
3	長岡さんの家の庭にあ る	空襲の時、家族がこの 中に入ってかくれてい た	すっかりあとはなくな ったが、かすかにあと が残っていた
5	沖本さんの家の近くの がけにある	空襲の時この中に入っ てかくれていた	コンクリートでうめら れている
6	浜元さんの家の近くの 畑にある	空襲の時この中に入っ てかくれていた	土でうめられている

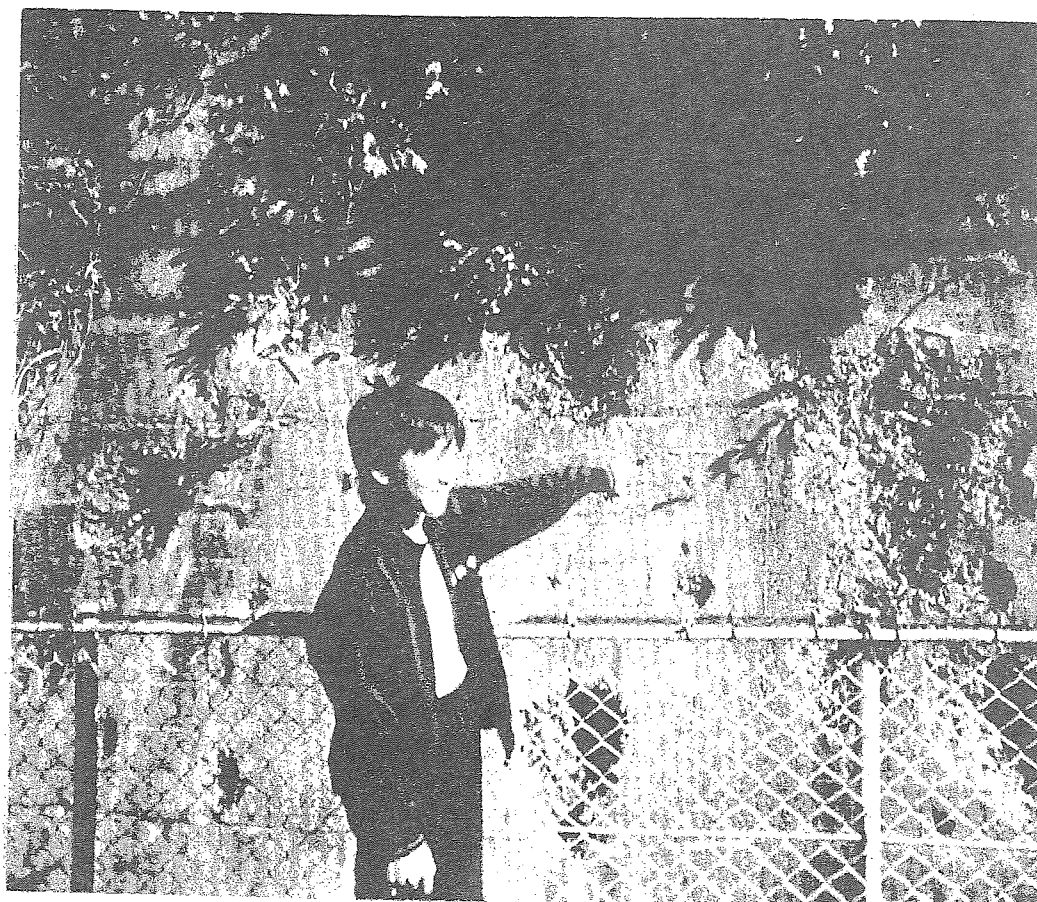
記号	説 明	当時の様子	今の様子
7	中原さんの家のうしろにある	空襲の時この中に入っ てかくれていた	もう土や石で完全にう められている
8	岡本さんの家のうしろ にある	空襲の時この中に入っ てかくれていた	コンクリートでうめら れている
9	山団地へ行く坂の手前 にある	空襲の時この中に入っ てかくれていた	畑になっている
10	藤原さんの家のあたり にある	空襲の時この中に入っ てかくれていた	あとかたもなくなっ ている
11	八幡宮に行く通りにあ る	空襲の時この中に入っ てかくれていた	コンクリートでうめら れている
12	沖田さんの家の庭にあ る	空襲の時この中に入っ てかくれていた	コンクリートでうめら れている
13	田口さんの家の近くに ある	空襲の時この中に入っ てかくれていた	コンクリートでうめら れている
14	山中さんの家の裏山に ある	空襲の時この中に入っ てかくれていた	あとかたもなくなっ ている
15	田口さんの家の近くに ある	空襲の時この中に入っ てかくれていた	石でうめられている

◆空襲で壊れた墓

記号	説 明	当時の様子	今の様子
4	小坪の林にある	爆弾が落ちてきてお墓 がこわれた	お墓に爆弾が落ちてき たあとがある



◆B29の弾の跡



記号	説 明	当時の様子	今の様子
	中国工業研究所前の道路沿いの山斜面にある	B29が空襲のときうった弾の跡	20mにわたって何百と跡がある

5. 概要の詳細

—— 文化祭案内テープから ——

これから「受け継ごう50年目の平和を」というテーマのもとに、二年生全員で取り組んだ文化祭の展示についてご案内します。私達は、一学期に「ベトナムのダーちゃん」という映画を見ました。そして、「戦争について調べ、文化祭で発表しよう。」と話し合いました。その結果、「長浜・小坪で育った私達にしかできないことをしよう。」ということ



テーマのアーチの下の文化祭実行委員会

になったのです。それが長浜・小坪の「第二次大戦体験の聞き書き」です。

「聞き書き」というのは、「家を訪問して、戦争中の生活についていろいろと教えてもらい、記録すること」です。

では、始めに、聞き書きの地図模型（P6～P12の地図）を紹介しましょう。

青と黄色のしるしは、私達が聞き書きをして回った家です。青が、聞き書きできたところ。黄色が、訪問しても聞き書きできなかったところ。私達は、2～3人ずつ組んで長浜・小坪の家を回りました。何組かが重複して訪問したり、一軒で何人もの方に教えていただいたりしたところもありますが、延べ204件訪問し、131件聞き書きをしました。黄色の旗は、防空壕があった所を表します。また、赤い綿をはりつけているのは、空襲で焼けた場所です。B29、は紙粘土で120機作りました。広・長浜・小坪が最も大きな空襲の被害にあったのは、昭和20年5月5日です。この時襲ってきたB29が120～130機でした。この時の空襲で被害にあった海軍工廠の工場を、ピンクで示しています。

では、当時の人々の生活の様子を紹介しましょう。まず、衣・食・住のうち、

衣からです。一般市民は、おもにもんぺ・防空頭巾を身につけて生活していました。服には必ず名札をつけており、名札には名前・住所・血液型を記入していました。万が一けがをした時のために、備えてあったのです。また、兵隊は、軍服や国防服を着ていました。

次に、食べ物を紹介します。人々が一番多く食べていたのが、麦です。後、いも、大豆、大豆かすと続いています。食糧が少ないため、米以外のものを混ぜたり水を入れたりして、お腹をふくらましていました。弁当は、梅干し一つがおかずの日の丸弁当でした。兵隊は、戦いの時には、とかげやカエル等の動物を捕って食べたり、現地の人の米や家畜を取り上げたりしていました。

次に、住居を紹介します。壁や家の窓は、墨で黒く塗ってありました。それはアメリカ軍の飛行機B29から目立たないようにするためです。そして、ほとんどの人が家の庭に防空壕を掘り、いざというときに必要な物をその中に入れていました。それでも、空襲がひどくなると、小さな子ども達は田舎にあるお寺等に疎開していきました。親戚のある人は縁故疎開。ない人は集団疎開です。特に、集団疎開は、今の私達には想像できない位つらいものでした。このように、食糧不足と並んで人々を苦しめたのが、空襲でした。

それでは、なぜ、広や長浜・小坪は空襲を受けたのでしょうか。それは、年表を見るとよく分かります。呉市は明治22年に鎮守府が置かれた後、軍の都市として飛躍的に大きくなりました。それにつれて、今の米軍基地のところに、兵器を造る軍の工場が作られたのです。そして、工場で働くため、全国から人々が集められました。これが、空襲を受けた大きな原因です。

では、B29に対して、軍はどのように応戦していたのでしょうか。当時の空襲体制の方針は、「市民を守るのは二の次」と決まっていた。「B29を攻撃するとサーチライトで軍事施設が見つかる。」と思い、爆撃されるにまかせていたのです。後に、B29がレーダーで軍事施設の場所を知っているという情報が入ると、やっと積極的に撃ち落とすように命令します。当時の新聞発表で計算しても、日本軍の弾は、約200発に1発しか当たっていません。ある人は、「逃げている時、軍の撃った弾の破片が目の前に落ちて、死ぬところだった。」と話しています。しかし、軍の発表では、空襲の被害は少ないことを強調していました。そして、「戦う気持ちさえあれば焼夷弾はこわくない。」と報道したりします。

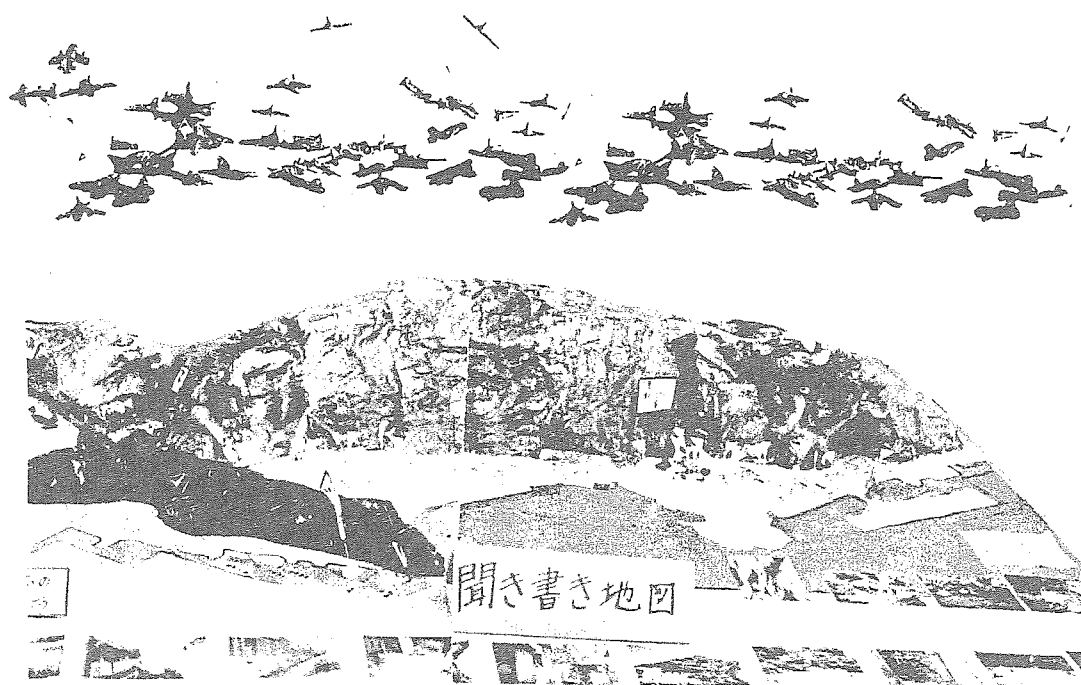
以上のように、人々の生活は、すべて戦争のためにささげられていました。たとえば供出です。溶かして兵器にするため、鉄でできた道具を軍にただで出すことです。子ども達も、こづかいを出し合って軍艦や飛行機代にさせられます。こ

れが「小供かちどき部隊」です。当時の雰囲気は、数々のスローガンでよくわかります。

私達は、今回の聞き書きを通して、私達が思っていたのとは全く違う戦争を知りました。戦争を経験された方達の苦しみ、悲しみ、絶望等、何ともいえない思いを知ることができました。私達の住む長浜・小坪で、たくさんの人達がこんな気持ちで生きておられたことを知りました。それは、私達には驚きでもあり、大きなショックでした。しかし、「戦争について知る」という私達の目的は、少し叶いました。これからも知ろうとする姿勢が大切だ、と思っています。

どうぞみなさん、私達が集めた資料をごゆっくりとご覧ください。

BGM「想像」（戦争と平和をテーマにした曲）



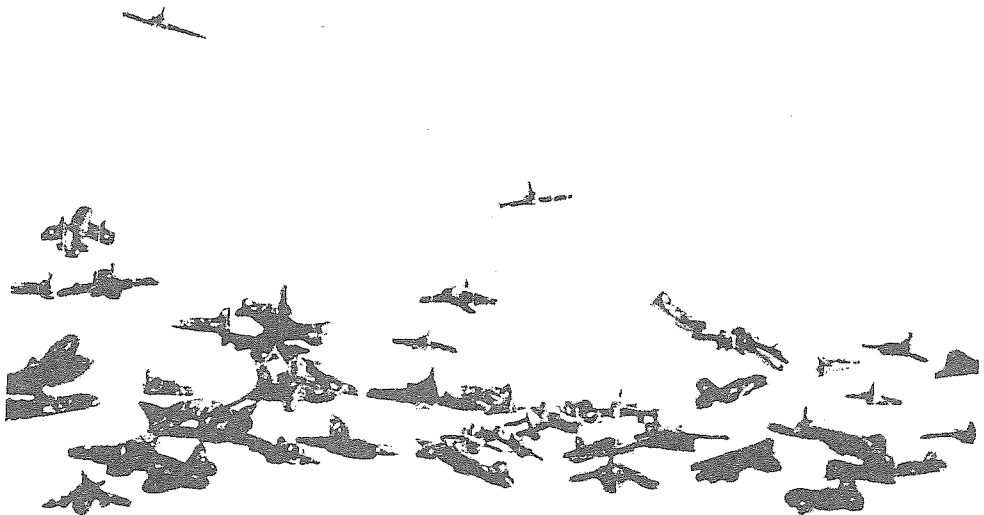
文化祭で展示された地図模型とB29模型

1. 広・長浜・小坪最大の空襲

- ・昭和20(1945)年5月5日 10時30分前後～11時30分前後、アメリカ第20航空軍B29が120～130機来襲した
- ・「アメリカ戦略爆撃調査団報告」によると、爆弾400発、計594トンが投下された。

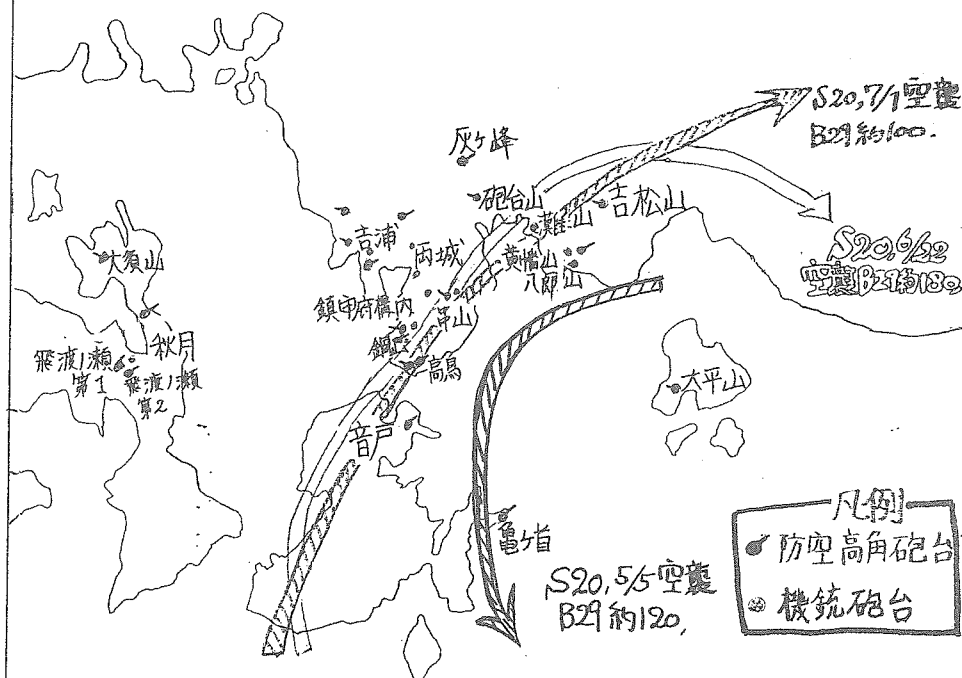
2. 5月5日の被害の程度

- ・「呉市戦災復興誌」によると、死者97人・負傷者35人・行方不明4人となっている。また、建物の全焼・全壊は100棟、半焼・半壊は150棟以上と大きな被害を出した。さらに、被災者は一千人以上にのぼった。



来襲するB29（イメージ）

呉市の砲台の分布図



1 空襲の月日

18~19年	8回
20年3月19日	7回
4月	1回
5月1日	1回
5月5日	2回
7月1日	2回
7月2日	2回
8月	1回

2 空襲の時の気持ち

戦争が始まった時、何かがおこるかわからず
とまどっていたか。日がたつにつれて
空襲でおこる生きた心地はしなかった。
戦争があまりにも長いので、もうこれ
終わりと思っていた。
何をやる気もなく、毎日が生き地獄だ。

3 空襲の被害

場所	1位	自宅	24件
	2位	隣近所	17件
	3位	山	14件
	その他	[神社、丘、橋など]	

程度

1位	丸焼け 全部こわれる	30件
2位	半焼け 屋根が飛ぶ	9件
3位	大火事 ガラスがこわれる	7件

文化祭で展示された「空襲」の模造紙

3. 空襲のときの様子・気持ち

証言 1

- ・現在の小・中学校の敷地は、広々とした埋め立て地だった。戦争中は、広海軍工廠第11空廠の資材倉庫として使っていた。しかし、アメリカ軍の焼夷弾投下によって燃え上がり、一部が消失した。

証言 2

- ・広地区が初めて空襲を受けたのは、昭和20(1945)年3月19日だった。アメリカの航空母艦からの艦載機によるものだった。当時私は設計課に在籍し、本館と呼ばれる三階建のコンクリートの建物の三階に居た。不意をつかれたためか、空襲警報のサイレンが遅れたようだ。逃げるために皆が整列している時、大阪出身の同僚が「あっ、グラマンや」と叫んで窓を指差すので窓の外を見ると、グラマン戦闘機が急降下しながら機銃掃射しているところだった。幸いこのときの空襲の被害は軽かったらしく、私が見たのは広の西大川の橋の近くの砂地に直径3mばかりの穴が二つあっただけだった。

証言 3

- ・5月5日の空襲の時間は昼頃であるので、地域におったのは亡母のみだった。母は、防空壕に避難したという。私が動員先の呉海軍工廠から帰って見ると、近所はほとんど類焼や爆弾や爆風で家がなくなっていた。

証言 4

- ・敵機が襲来したときは生きた心地がしなかった。朝から昼頃まで防空壕に入っていて、恐ろしいと思った。

証言 5

- ・空襲の時、防空壕に十人位入っていた。中では目と耳を押さえてかごんでいた。「ずしん、ずしん」と爆弾が落ちる音がした。空襲がすんで出てみたら、辺りは全部焼け野原で、まだ一部燃えていた。

証言 6

- ・バリバリと音がして弾が落ちるのと、火の手が夜空に大きく上がるので、とてもこわくて見ることもできなかった。

証言 7

- ・爆弾がたくさん落ちてきて、家が次々に燃えた。広の町も山も海も火で真っ赤だった。

証言 8

- ・昭和20(1945)年5月5日。私はこの日を忘れる事ができない。130機のB-29爆撃機が第11空廠の地下建物を壊滅させた日だ。午前10時か10時半頃だったか。空襲警報が鳴ったので、皆それぞれに非常持出しの袋入りの図面等を持ち、隊列を組んで、表門から道路を隔てた防空壕へ逃げ込んだ。表門は、現在の中国工業研究所の表門の辺りか、あるいはもう少し南だったかも知れない。爆撃は間もなく始まった。初めて体験する1トン爆弾の威力は、さすがに腹にこたえた。特に、我々の入った防空壕のある山に直接落ちた時など、女子工員の中には悲鳴を上げる人もいた。

爆撃が終わってしばらくして落ちついた頃、外へ出て用を済ませた同僚が帰って来た。そして「やられちよる。庁舎の建物がすっかり無くなっちゃる。」と言ったので「えーッ。」と仰天してしまった。しかし、間もなく警報解除になって外に出た時、自分自身が現実を目にすることになった。第11空廠のシンボルであり、司令部として我々に君臨した庁舎は、完全に焼け落ちていた。それから何時間かの後、「近くの人は様子を見に帰って来てもよろしい。」と言われたので、長浜へ帰った。その途中、大通りのあちこちに馬が倒れており、特に津久茂では三匹がかたまって死んでおり、可哀相だった。家は別に異状なかったが、妻が「本家へ不発弾が落ちて大変よ。近所も立ち退き命令が出て大騒ぎよ。」と言うので、あわてて駆けつけた。現場は、階下の座敷の床下だった。不発弾は地面へもぐり込んでいて、全く見えない。片手で上の土を掘ってみたが、何も現れないので直ぐあきらめた。「やっぱり本職にまかせよう。その間、用心のため家へ行っておりんさい。」と母に言いおいて、職場に帰った。後で聞いたところでは、不発弾の正体は、何と一抱えもある大きな石だった。まるで漫画を見るような話である。しかし、先端がとがってもいない石が、屋根を破り、天井を破り、二階座敷の畳や座板を破り、更に下の座敷の天井、畳、座板を破り、地面へあれだけめり込むなんて、高空からの落体の加速度ってすごいと思う。

証言 9

- ・みんな死ぬ気持ちでした。いつ爆弾が落ちてくるかわからないのでドキドキした。

証言 1 0

- ・昭和20(1945)年7月2日夜、旧呉市内全般が焼夷弾攻撃を受け焼失した。たまたまその日、叔父(母の弟)の娘が呉の親戚へ用事で行っていて、翌日の午後になっても帰らないので、叔父が心配して一人で探しに行った。それを私は後で知り、ボロ自転車で後を追った。「呉でうまく叔父と会えるかしらん。」と心配していたが、呉市内は一面の焼野原なのですぐに会えた。「まず、親戚の焼跡をよく探してみよう。」と二人で探している時、突然叔父が「わっ。」と言った。それを見ると、黒く炭化した女の人の死骸だった。叔父は「ハーちゃんのおふくろじゃ。」と言っていた。ハーちゃんとは、目がほとんど見えず、琴の先生をして生活している人だった。その死骸は、縞子(シユス)の帯をしていたが、絹物のせいか模様がよく見え、一部中の芯の網の目が鮮やかに見えたのが印象的だった。後でわかった事だが、この人は空襲が始まって逃げようとはせず、「私は年寄りだから逃げずにこの家で死ぬ。目の見えないハーちゃんを頼む。」と叔父の娘にハーちゃんを預けると、手を合わせて「南無阿弥陀仏」と念仏をとなえて二人を送り出したという。

証言 1 1

- ・工場に行く途中、津久茂から工場まで米軍機(グラマン)に追っかけられたことは今でもよく思い出します。年をとって忘れたといえやすむ事ですが、思い出すのがいやな気持ちです。楽しいはずの青春が地獄でした。

証言 1 2

- ・一瞬にして家が無くなり、ただぼうぜんとしていた。それから50年たった今でも「焼けていなかったら……」と悔やまれてならない。記念に門柱の頭がある。

証言 1 3

- ・空襲におびえて、何をする気もなく、家族が同一行動をとるのみだった。早く戦争が終わればいい、もうダメと思った。

証言 1 4

- ・終戦前、妊娠8ヶ月ぐらいの体になった。いつ生まれるか分からないので、父親が、山の畑に防空壕を夜掘ってくれ、安心してお産ができる様にしてくれた。「近くには山水も出ているし、ご飯も炊ける。」と安心した。でも終戦になり、必要はなくなりましたが、10月7日に無事出産しました。

4. 呉軍港防空体制

◆市民を守るのは二の次

- ・「B29を攻撃すると、サーチライトで軍事施設が見つかるので、砲台を使うな。」と軍は始めのうち命令しました。ところが、後になって、B29がレーダーで軍事施設の場所を知っているという情報が入ると、積極的に抗戦するようやっと命令しました。

◆事実を知らされなかった国民

- ・軍は空襲被害の実際を隠し、新聞やラジオを通じて、空襲の被害は少ないことを強調しました。そして、「戦う気持ちさえあれば、焼夷弾はこわくない」と報道させています。

◆あまり当たらなかった弾

- ・当時の新聞発表で計算しても、日本軍の弾は約200発に1発しか当たっていない。ある人は、「逃けている時、B29をねらった頭くらいの大きな弾の破片が目の前に落ちてもう少しで死ぬところだった。」と、話している。砲台の近くにある民家に被害があることもしばしばあった。

被害が少ないことを強調する新聞記事

敵米空軍は八日呉軍港に侵入し、わが防壁を破り、十数機をもちて再び九州に侵入した。午前二時ごろ敵機は呉市近郊に侵入し、わが防空部隊は奮然と迎撃したが、地上に落下した焼夷弾は、呉市近郊に落下し、民家の焼失を招いた。また、敵機は呉市近郊に侵入し、民家の焼失を招いた。また、敵機は呉市近郊に侵入し、民家の焼失を招いた。

宣傳にゲリラ空襲

大本營発表昭和十九年七月八日六時 本七月八日二時頃敵機十数機大陸基地より九州西部及北部地方に侵入せるも我制空部隊は直ちに邀撃之を撃退せり、我方殆んど被害なし

制空部隊、直に撃退

殆ど被害なし

敵機九州西部北部に侵入

油脂焼夷弾に勝つ

戦訓活かしかた九州民防空陣

油脂をかけ上つてみましたが、
所をふさいで天井まで燃えてあ
ますので、即座に廻り直ちに吸
けつけてくれた婦組の人々の助け
で天井を破り、私の家の前にあつ
た排水槽から飼育ポンプで水をか
け約十分鐘く、

「たゞは
水が油脂の炎に對しては何より
も強いことであり、水だけで十分
に消し得るといふことです、
それゆへにその間モンベ部隊

蒲團で押へる

不具の身で敢闘十分間

不自由な左足不具の身体で
單身よく油脂の炎と闘つ
て消し止めた平塚太郎と
人々の話

福岡縣に戦後の復興を続ける長
男政道さん(28)の母宅を引寄せ
け家内三人をかへて政太郎さん
は、一層奮起することになり三人
を自家の持運庫に待避させて、
自分是不自由な身も奮みず、戦

の人々がたえず、財物を助けた
やうにレール式に放水してくれ
たので、戦後の地方が如何に強い
ものであるかといふことをつくつ
く感じました、なほ今後の体験か
らみると、蒲團の存在こそ至極
と同時に相違ないものがあり、
間に火の消となることとこれに目
を奪はれてゐる敵目、必ずそ
の中心に全力を集中しなければな
らないと思ひます、また二階に
は椅子を並べ、備へて置きたいもの
です、

「持運庫は家屋の近くにつくり
次の行動への陣地でなくてはな
らぬ」と断々いはれてゐた理由
が本當によく判りました、もし
あの時私も老人たちの入る防空
壕に入つてゐたら発見が速れ、
いはば大炎が起つたかも知れ
ません、蒲團などの物はまさに
一瞬にして決せられるものと
直感しました、それにしても日
ごろ不自由な足で相違時間がか
かる運搬も一週に上りきつて
しまつたのですからつくづく、精
力の強さを痛感しました

戦後の助産を脱却、蒲團運搬す
るや時を待たずかて水道口に取
附けておいた水一スを引くべく
やうに抱へて二階にかけ上り火花
を散らす蒲團を蒲團でぶさへつ
ける防犯具も、おそろつた戦後
の他の家員へ注水、火勢の延へる
のを見極めて蒲團に包んだまま、
男組を並べに運び出し、引きかへ
して家の中の火を完全に鎮火させ

たのちまたが戸外に出した蒲團の
の威嚇を述べた、その間わづかに
十分鐘、初期防火動作を蒲團
そのまゝにやつてのけたもので、
断片づくに新しい政太郎さんを
れんと「いふ中」でやりました
よ」と次のやうに語つた

「蒲團は戦時に感ぜられた、其の
の理由が、火災時に至らぬ
るに消し止めたのも、早期発
見と蒲團に水を用ゐてあつたこ
とによる

水のことではなほ、そのほか
井戸水を確保しておくことだ、
騒動万では二階の押入れに空
蒲團や蒲團を置いたのは、大
に至らぬとしたが水槽の水を使
ひ果したのには井戸水でウツ
注水、二階だけ半コク程度に
止めた、蒲團の手押ポンプも
消防ポンプが到着するまでの火
勢制壓に大いに役立つことが実
証され、被爆地区の人たちは口
を揃へて「手押ポンプを開へ
よ」と語つてゐる

延焼逃れた
水槽の他に確保
水槽の水を確保し、井戸水
の注水で延焼を食い止めた
福岡縣民の人々の話

万が一の火災にといはれる「水」の

打撲は戦時に感ぜられた、其の
理由が、火災時に至らぬ
るに消し止めたのも、早期発
見と蒲團に水を用ゐてあつたこ
とによる

水のことではなほ、そのほか
井戸水を確保しておくことだ、
騒動万では二階の押入れに空
蒲團や蒲團を置いたのは、大
に至らぬとしたが水槽の水を使
ひ果したのには井戸水でウツ
注水、二階だけ半コク程度に
止めた、蒲團の手押ポンプも
消防ポンプが到着するまでの火
勢制壓に大いに役立つことが実
証され、被爆地区の人たちは口
を揃へて「手押ポンプを開へ
よ」と語つてゐる

避難に非ず
監視は怠るな
次は戦時だが待避中でも絶対に目



家の監視を怠らぬことが必要、時
が過ぎれば終つてはならない、そ
れから心得ねばならぬことは、家
の監視を本務より十分行ひ、延焼
を防ぐことである、被害者のうち
には押入れに堪へず、襖のフツン
上へ落ち、危険な状態に移らんと
したのである、今日より家内を
監視監視しよう

また火災に燃れてはならぬ、被
害者の体験によれば、蒲團と同時
に火災が激散し、自もくは
どの状況を見ても、あたかも火災状
況の如く見られるが初期ではま
が燃え移るに至つてゐない、こ
の火災に燃れをなして消火の手
を抜けばそれこそ本當の火災に
移行するのである

(上から)天井の耐火壁を破
り、ポンプで消した中村氏、蒲
團を運搬し消火した牧ノ原氏、
氏、床下に隠れたのを手づか
み救出して、火勢を抑へた
谷本氏、政太郎氏、不具の身で消
火に戦つた平塚太郎氏、
何れも、福岡縣民の勇気と団結

1. 新聞記事からわかる日々の生活

汗の乾かぬ内に水洗ひ

石鹼を使はぬ肌着の洗濯

暑くなるにつれて汗染めた肌着類は手まめに洗濯しなければならませんが、一々石鹼を使つてゐたのでは堪まりません。汗のアムモニア分が変化しないうちに水で手早く揉み洗ひにするかお湯で洗へばどんな白い物でも綺麗に仕上ります。これまでのやうに洗濯日などきめて洗つておくと洗ひれを布に染みこみ、石鹼としては落

睡眠は十分に

衛生・食物に注意を

睡眠不足は精神不足の要因です。殊に時間が長ければ長いだけ疲勞がつつて神経をいらだたせ、いざの場合に十分な動きが出来ません。疲勞の七、八割までは精神的疲勞で、これが肉体を衰弱させ、病気に組はれるようになります。また食物は腐敗し易く、喉も腐敗して來たから余分な注意しないといふ、炭素、炭素等の腐敗物

またスフや人絹製の弱い布でもその程度のうちに軽く揉み洗ひにして水をきるにも布を磨んで水通しを出さうとするれば、繊維の傷などもなく、乾いた時もしわにならず縮附けたした時のやうにチヤンと仕上ります。丁寧に磨んで洗濯機の下などに置しをかけるは、一々アイロンをかける必要もなく、濯の洗濯に少しも苦勞はありません。

重寶な煎り大豆

軟い煎り大豆の作り方

空生 製活 耐へ 踐實の

暑形醬油が出たといつてもう、くやうなものであつてはなりません。この空生、活全面にわたつて空襲に耐へる生活への切實な必要であります。日常生活のどんな小さなことでもこの空襲を前に置いて、無切な處置と行動をとつて生活を實踐化しなければなりません。

醬油が出るたびに、その都度揚げ飯を作つたり余分の餅飯を煎もつて飲かためつゝ豫定の分を食ふといふのは、例は少くありません。人へそこで保存がきき、熟練にも便利に上たいたの場合、ガスその他も使へなくなることがありますから煎もつて「煎り米」「煎り大豆」を準備しておきませう。

煎り大豆

カラ煎り大豆は

はしく保存もきくが消化が難いので一晩水に浸し乾かしてから煎ると焦の通りも早く軟く食べようになり、豆を浸した水は味噌汁に用ひます。

鹽豆

大豆を煮がしすぎないやうな中火で煎り、八分通り火が通つたころに塩水(海水より薄く)をヒタヒタ程度よりかけ、すつかり煮えさせる。塩をふいた豆が出来上ります。

を瓜南

◇……きんぴら 南瓜を長さ六、七分の粗いせんち切り、フライパンの

2. 生活の仕方

◆ 1日の生活モデル

	兵隊	疎開していた人	学校へ行っていた人	一般の人
5	↓	起床	↓	起床
6	起床	仕事 ↓ ・畑仕事 ・たきものを集めに行く ↓ 学校 ↓ 学校 ↓ 学校 ↓ ミシン仕事 等 ↓ 用事 ↓ 夕食 ↓ 寝る	起床	仕事 ↓ 学校 ↓ 学校 ↓ 遊び・手伝い ↓ 仕事（工場で） ↓ 夕食 ↓ 寝る
7	体操		朝食	
8	朝食		学校	
9	訓練		学校	
10		学校		
11		学校		
12	昼食	昼食	昼食	昼食
13	訓練	学校	学校	仕事
14	↓	↓	↓	↓
15				
16	↓		遊び・手伝い	
17	夕食	ミシン仕事 等	↓	
18	掃除 他	↓	仕事（工場で）	
19	↓	↓	↓	
20	寝る	用事	↓	
21	↓	夕食	夕食	寝る
22		寝る	寝る	↓
23	↓	↓	↓	↓

◆ 1日の生活の実際

兵隊になっていた人の証言

- ・ 作戦中の生活は決まっていない。
- ・ 兵隊さんが死んだら、衛生兵がうでを切り、それを飯ごうに入れて、死んだ人の一番仲の良かった人に持たせ、戦後に焼いた。（忙しい時は指だけ。）

- ・シベリア………カラムツの木を切り倒して、暖房のため油を採った。
- ・中国………中国人ゲリラを防ぐために陣地を作ったり、食糧の買い出しをした。
- ・中国………畑を耕して食糧（米、タピオカ、タロイモ、サツマイモ）を作（南方）った。

疎開していた人の証言

- ・朝5時頃にはもう起きて身支度をすませ、たきものを集めに行く。6時頃から畑仕事を行う。午後も畑仕事を手伝ったり、縫い物をしたりする。夜は遅くまでミシン仕事をする。時には、朝まで仕事を続けることも度々あった。
- ・集団疎開は1組50人（小学校4年生以上）でした。先生は、全員女だった。1日中集団生活だから、いじめがひどかった。

学校へ行っていた人の証言

- ・学校で勉強をしようと思っても、警戒警報のサイレンが鳴ると、すぐ先生に引率されて地区ごとに集団で帰宅していたので、勉強していた感じはない。
- ・運動場に防空壕を掘ったり、畑を耕して食物を作ったり、竹やり訓練ばかりした。だから勉強はほとんどなく、あっても戦争や天皇のことばかりだった。教科書は4人に1冊位しかなかった。
- ・学校に天皇の写真があり、みんな門に入る時おじぎをして入り、帰る時もおじぎをして帰っていた。
- ・中学2年では、学徒動員で工場等に行き、武器等を作った。
- ・昭和19(1944)年6月から、学徒動員ということで学校へ行かず、軍需工業（呉海軍工廠）へ行って海軍の仕事をしていた。5月までは通常の学業があった。

一般の人の証言

- ・朝起きたらすぐ仕事をした。その間をぬって、食糧の確保や竹やり訓練を時々した。
- ・工廠での日常の勤務は、午前7時から午後4時45分（定時間）までだったと思う。昭和7(1932)年頃より2時間残業が始まり、仕事の終わりは6時45分にまでなった。昼夜の2交替制になったのは、昭和14(1959)年頃だったか？仕事の始業時には朝礼が行われ、「海行かば」等の軍歌を合唱させられた。

- ・昭和16(1941)年に戦争に突入した後は、通勤に「ゲートル」という陸軍用の巻脚絆を足にまくことを義務づけられた。同時に、物資不足のため下駄履きも許可された。
- ・当時、父が長浜沼田地区の一画の隣組長をしている時に、国債の割り当てがあった。そこで、各家へ一枚ずつ一応お願いした。ところが、夜になって、ある家の息子が酒に酔ってやって来て「ちょっと伺いますが、国債というものは、食う物を食わなくても買わなければいけないものなのではないでしょうか？」といった。父は「そんな事はありませんよ。お国の為に無駄使いをやめて一枚でも多く買ってくださいということです。あなたはどうか酔っておられるようだが、それでも食う物が無いようでしたら遠慮なく返してください」と言った。その人は、「そうします。」と言って憤然と帰っていった。しかしついに国債は返しに来なかった。
- ・ジフテリアがはやった。
- ・何時でも逃げられるように、名札、血液型を胸につけ2～3種類の薬を入れた救急袋をいつも肩に下げていた。夜寝るときは、いつ空襲があってもいいように服を着たままで寝た。いつも枕元に救急袋と靴と防空ずきんをおいて寝ていた。(リュックも)

3. つらかったこと

兵隊になっていた人

つらかったことベスト3

- 1 位 厳しい軍隊生活（規律、上下関係、体罰）
- 2 位 戦友の死
- 3 位 訓練

証言

- ・自由が全くなく、がんじがらめの24時間だった。
- ・訓練が激しいために、短剣で切腹して死んだ軍人もいた。
- ・毎晩指導員になぐられ、顔等から出た血で、廊下はいつも真赤だった。そして、それを消すために、毎日砂ずりをして廊下をそうじさせられていた。

- ・軍隊では、何をするにしても個人や団体の競い合いだった。負けたら食事を抜きにさせられたり、顔やお尻をなぐられたり、体罰を受けた。
- ・戦争で死んだ戦友の骨を3体くらい持って帰って、その人の家族にわたすのがつらかった。
- ・ハワイ攻撃に向かうために北海を航行している途中、波が大きいために軍艦が木の葉のようになり、船酔いした時、3日間食事が取れなかった。
- ・全てがつらく、とにかく早く我が家に戻りたかった。
- ・ラバウル航空隊に勤務している時、マラリヤが大流行して、部隊の1/4がかかってしまった。マラリアの予防法として、暑いかやの中でも長袖の服（エンカン服）を着てずっと寝た。このように注意していたのに「テング熱」病になり、熱が40～41℃も1週間位出て休んだ。「テング熱」病の薬は「キニーネ」であった。1回に食前1粒を服用するところ、早く治したいため、1回に3粒を3日のんだら熱は下がった。しかし、そのために今度は黄疸になってしまった。静養していたら、やっと1週間位で治った。
- ・台南航空隊にて、沖縄作戦の準備中に敵B29爆撃機の攻撃を受け、頭部と右股間命部を負傷し、九死に一生を得た。
- ・二度と戦争はしたくないものです。帰らぬ戦友の事を思うと今でも胸が痛んでなりません。

疎開していた人

つらかったことベスト3

- 1 位 食糧がない
- 2 位 物資不足（薬、鉛筆、その他）
- 3 位 親と離れていること

証言

- ・ノミ、シラミが異常発生した。見つけて手で取る位ではどうにもならないので、着ている物を全部脱いで、ぐらぐら沸とうしている湯に入れて煮た。その時はいなくなるが、どういうわけか又すぐ発生して何度煮てもいつも身体中がかゆくてかゆくてたまらなかった。かゆさのために眠れないこともあった。

- ・食べ物も少なく、両親と離れているので、ホームシックになった。特に夜などは心細くて、家が恋しくなった。我慢できず、黙ってぬけて帰る者もいた。

学校へ行っていた人

つらかったことベスト3

- 1 位 食糧がない
- 2 位 空襲の時の避難
- 3 位 勉強ができない

証言

- ・空襲のため、家財道具だけでなく住む家さえも無くなった。その日から、寝る所や着る物や食べる物等全てに困り、どうしてこんな目にあうのかと子供心に情けなかった。
- ・空襲警報が鳴ると、給食のパンをもらって帰った。帰る途中に艦載機で空襲され、撃ち殺される人もいた。次の日学校へ行ってみると、昨日まで遊んだ友達が死んでしまっていていないことがわかり、何ともいえなかった。

一般の人

つらかったことベスト3

- 1 位 生活の全て
- 2 位 金不足
- 3 位 我が子を満たしてやれない

証言

- ・徴兵制のため兵隊に行った夫の生死を、毎日心配しながら暮らした。また、働き手がおらず生活が苦しかった。
- ・国の体制が全て戦争に向かっているので、仕事が少なく、いつまでその仕事ができるか、安心できない。仕事がなくなったら子供をどうやって養おうかと考えてつらかった。
- ・戦争中の人々は、つらいことが当たり前だと思っていた。
- ・戦時中ジフテリアがはやり、女の子二人（5才・4才）を亡くしてしまった。終戦後、中国から引き揚げるとき、男の子を一人亡くした。子どもを亡くするのが一番つらい。

4. 楽しかったこと

兵隊になっていた人

楽しかったことベスト3

- 1 位 家族、友人達や現地の人達との心の交流
- 2 位 楽しいことは何もない
- 3 位 自由時間

証言

- ・他がつらいので物を食べることだけが楽しみだった。
- ・ハワイ、カイロ攻撃が終了した時、「生き延びることができた。」とたまらなくうれしかった。
- ・日曜日等に、タバコや食べ物を持って親が面会に来てくれると、次はいつ生きて会えるかわからないだけに本当にうれしかった。
- ・外地に何年もいたので、日本からの慰問袋をもらうと、故郷がなつかしく、うれしかった。

疎開していた人



集団疎開写真

楽しかったことベスト3

- 1 位 家族や友人達との稲刈り等
- 2 位 家族との思いやり
- 3 位 わずかな品物を持って親が面会に来てくれること

学校へ行っていた人

楽しかったことベスト3

- 1 位 楽しいことは何もない
- 2 位 友人達との思いやり
- 3 位 修学旅行の思い出

証言

- ・シンガポールが陥落した時、提灯行列があった。にぎやかで、この調子ならすぐに日本が勝てそうに思えてうれしかった。
- ・たまにしかない授業があると、少しでも吸収したいとはりきり、学ぶのが楽しかった。
- ・勉強が好きでなかったのに、しなくてもよかったことが何だか得をしたような気がしていた。
- ・勝てると思っていたので、戦争が楽しかった。

一般の人

楽しかったことベスト3

- 1 位 家族や友人達との思いやり
- 2 位 物を食べることに
- 3 位 ボーナス、自作の品物の完成

証言

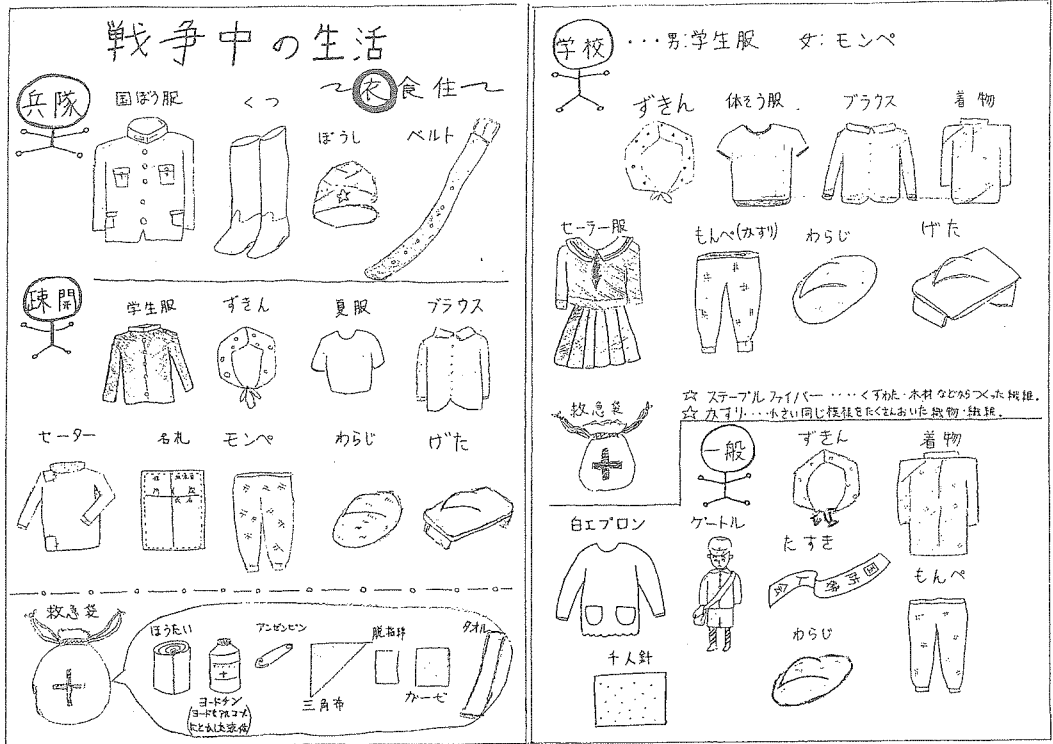
- ・寝ている時は全てを忘れていられるので、寝ることが一番の楽しみだった。
- ・不自由な生活でも、子どもがすくすくと成長して、表情が豊かになってくる様子を見ての感動が大きかった。戦地の主人にその様子を知らせる便りを書くのが楽しみだった。
- ・主人が工場から元気で帰ってきてくれることがうれしかった。
(空襲がひどく、朝出かけて帰るまでに、死んだりケガをしたりする人が多かったから。)

● 衣 食 住

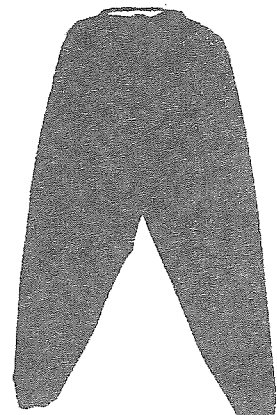
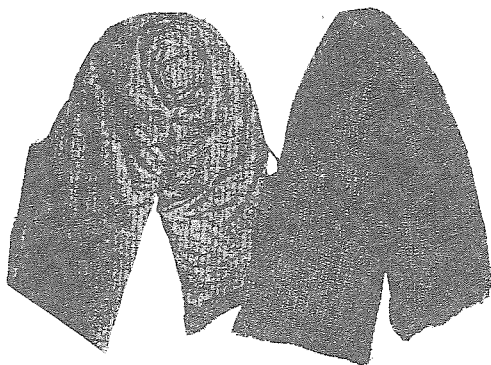
1 衣生活

◆当時の一般的服装

・当時、それぞれの人達はこのような服装をしていた。

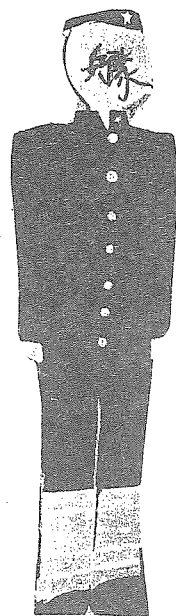


文化祭で展示された「衣生活」の模造紙



兵隊になっていた人の証言

- ・夏の衣服はクンパスの様な生地で汗で、ぬれると固くな^{また}った。そのため、シワシワのできたところで摩擦し、^{また}股の所がすれて股ずれができ、難儀した。そこで、摩擦しないように上から縛って歩いた。
- ・軍隊での階級が進むにつれて、服につける星の数が増えた。(1等兵が星2つ、上等兵が星3つ、伍長、兵長、軍曹将校と順々に進級して増えた。)
- ・兵隊になる時にもらった千人針は、いつも肌身離さずつけていた。5円玉がぬいつけてあり、「これで死線(4センチ)を越えることができる。」と喜んでいた。



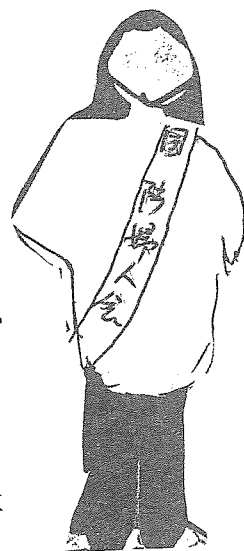
学校へ行っていた人の証言



- ・上着は、国民服といってステープルファイバー(スフ)という生地で作られた学生服だった。下は、カスリの古着で母や姉にモンペを作ってもらって着た。いつも防空頭巾を持っていて、いざ空襲となると頭から首にかぶった。

一般の人の証言

- ・着る物について残念といえば、こんなことがあった。よそ行きの紋付き、羽織、袴等夫婦二人分の晴れ着類を箱行李に入れて西脇神社上の畠の小屋へ疎開させていた。ところが、終戦直後昭和20(1945)年9月17日の水害で、根こそぎ小屋が壊れてしまって、神社の鳥居と共に海に流されてしまった。

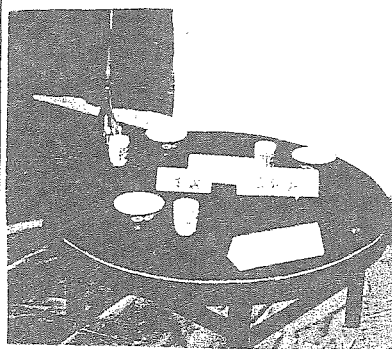


2. 食生活

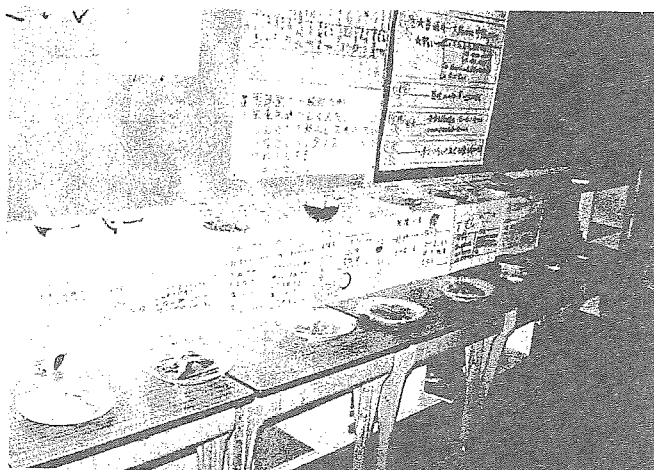
◆当時よく食べていた物ベスト3

・当時、このような物をよく食べていた。

戦争中の生活		～衣・食・住～
1位 麦	2位 芋	3位 大豆・大豆カス
(その他) ・カボチ焼き ・とうもろこし ・あめ ・こう揚かん ・米 ・外米 ・つけもの ・梅干 ・野菜 ・魚 ・みそ汁 ・肉 ・卵 ・塩こぶ など		
(兵隊)	★普通時…大隊のあと中隊が食べる	
(兵隊)	★戦いの時	1位 果物、動物、魚介類 (・猪・カエル・トナリ) (・犬・ネコ・スズメ) 2位 現地の人の米、家畜を取り上げる 3位 飲まず食わず
(疎開)	-----	百姓さんの畑へ買い出しに行く
(学校)	昼食-----	・弁当を持て来る ・家へ帰って食べる ・米だけの弁当は先生に怒られる
(一般)	-----	米にいろいろ混ぜる(量を増やす)



文化祭で展示された「食生活」の模造紙



◆食生活の実際

兵隊になっていた人の証言

- ・移動中は缶詰（非常食なので、普段は食べない）を食べることもあった。しかし、ほとんどの場合、その国の現地の人達の米（日本軍が来るというので、現地の人が逃げていった後残っている米）をたいて食べた。また、現地の人が飼っている鶏や豚を殺して食べた。ニューギニアでは、木の芽や木の根を食べることもあった。もっと悪い時には、1週間水だけですごした。
- ・軍隊は玄米食だった。玄米は今まで食べたことがなかったので、膳の1/3あるいは1/4しか食べなくても、ひどく下痢をした。腹も張り、夜間の便所に行くのも間にあいそうもないので、すぐ便所に行けるように1ヵ月位はズボンをはいたまま寝た。

疎開していた人の証言

- ・百姓さんの畑へ、いもや野菜等を荷車で買い出しに行った。疎開先の村の人たちが、生徒を家に呼び、すし等を作ってよく食べさせて下さったことを有難いと思っていました。
- ・農家の親戚等を頼って縁故疎開できなかった、集団疎開（先生も一緒に、学校ごとで疎開すること）の子どもは悲惨だった。いも御飯は大ごちそうで、ほとんど食べることはできなかった。山からどんぐりを取ってきて、粉にして食べたり、いなご（バッタ）をとってきて、いりがわりにして食べたりした。しかし腹の足しにはならず、栄養失調のため、ほとんどの生徒がむくんでいた。親が面会に来てくれる時は、無理をしてわずかでも食べ物を持ってきてくれるので、皆、待ちこがれていた。しかし、それを食べると、普段食べられることが少ないので吐いてしまうこともあった。飢えのため、その吐いた物まで食べることもあった。

学校へ行っていた人の証言

- ・麦御飯に梅干し一つの「日の丸弁当」を持っていける子はまだよかった。雑炊だと弁当箱で持っていくわけにはいけないので、家に帰って食べてくる子も多かった。
- ・米は作っていたので、いくらでもあった。しかし、学校に持っていくと先

生たちが見て歩いて、米だけの弁当だと怒られた。だから麦飯を持ってきた子に少しもらって、上に麦飯をしいて米の御飯をかくした。

一般の人の証言

- ・大豆入りの御飯は確かにまずいけれど、職場では皆が同じ物を食べていたので不満はなかったと思う。ただ、大豆を体質的に受けつけないのか、慢性下痢症になって、食後必ず便所に駆け込む者が中にはいた。食べ物がないうちなので、しょう油や塩、調味料はもちろんなく、海の水を煮て塩をつくったりした。

◆疎開していた人のメニュー

縁故疎開の豊かな例

個人的に農家等の親戚を頼ることのできた縁故疎開の人は、比較的恵まれた食生活をしていた。次のメニューは縁故疎開をされた方につくっていただいたいの物である。これは、縁故疎開の中でもかなり豊かな例といえる。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
朝	菜っ葉汁 つけ物	ねぎ汁 つけ物	菜っ葉汁 バッタ つけ物	菜っ葉汁 つけ物	菜っ葉汁 バッタ つけ物	菜っ葉汁 バッタ つけ物	菜っ葉汁 海苔 つけ物
昼	すいとん つけ物	すいとん つけ物	日丸弁当 煮豆 海苔	すいとん (ひえあみ入り)	大豆飯 (さつまいも 入り)	すいとん (大根入り)	すいとん (ひえあみ入り)
夜	雑炊 菜っ葉汁 昆布煮付 つけ物	雑炊 菜っ葉汁 煮豆 つけ物	大根飯 つけ物	雑炊 菜っ葉汁 大根油煮 つけ物	雑炊 大根汁 豆腐 つけ物	いも飯 菜っ葉汁 大根おろし	雑炊 菜っ葉汁 つけ物
おやつ	きな粉 むすび		どんぐり乾パン	どんぐり饅頭	どんぐり饅頭	さつまいも	くり

◆当時の主な食べ物の作り方

乾燥いも

材料

さつまいも

作り方

さつまいもを
切って、乾燥
させる。



すいとん

材料

・団子(小麦粉)・大根
・はじみ 青野菜・塩
・こしょう・油(10cc)

作り方

いかにたいて、だしとて野菜を
煮て、湯かき。団子を入れ、
団子を入れ、団子が浮くまで
煮る。



雑炊(むぎ入り)

材料

・大根・大根の葉
・いりこ・たまねぎ
・ごはん・みそ
・水・にんじん

作り方

(いりこ・だしとて)野菜を
入れて煮て、雑炊を
入れて、味をつける。



いもだんご

材料

いちも 小麦粉
きな粉
お砂糖

作り方

いもを潰して、
小麦粉を加えて、
きな粉を加えて、
お砂糖を加えて、
こねて、団子に
する。



栄養失調でむくんだ。
・とんぐりを粉にして食べてい
・いなご(バッタ)を、いりこ
がわりにする。
・イモごはん。

さぬさやのいたねもの

材料

さぬさや
たまねぎ
塩
こしょう
油

作り方

フライパンに油を
熱し、さぬさや
とたまねぎを
強火で炒め、
いたねものを
入れる。

かぼちゃ

材料

かぼちゃ
塩
油

作り方

かぼちゃを
皮を剥いて、
塩を加えて、
油で炒める。

乾燥いも

材料

さつまいも

作り方

さつまいもを
切って、乾燥
させる。

いりこ

材料

いりこ
たまねぎ
みそ
水
にんじん

作り方

(いりこ・だしとて)野菜を
入れて煮て、雑炊を
入れて、味をつける。

いもだんご

材料

いちも 小麦粉
きな粉
お砂糖

作り方

いもを潰して、
小麦粉を加えて、
きな粉を加えて、
お砂糖を加えて、
こねて、団子に
する。

雑炊(むぎ入り)

材料

・大根・大根の葉
・いりこ・たまねぎ
・ごはん・みそ
・水・にんじん

作り方

(いりこ・だしとて)野菜を
入れて煮て、雑炊を
入れて、味をつける。

すいとん

材料

・団子(小麦粉)・大根
・はじみ 青野菜・塩
・こしょう・油(10cc)

作り方

いかにたいて、だしとて野菜を
煮て、湯かき。団子を入れ、
団子を入れ、団子が浮くまで
煮る。

乾燥いも

材料

さつまいも

作り方

さつまいもを
切って、乾燥
させる。

名 前	材 料	作 り 方
乾 燥 い も	さつまいも	・ さつまいもを切って、乾燥させる
す い と ん (団子汁)	団子(小麦粉)、水 大根と人参の葉、塩	・ 野菜を煮て、味つけをして、団子 を入れ、団子が浮くまで煮る
麦 雑 炊	大根、大根と人参の葉、 玉ねぎ、麦ご飯、塩、水	・ 野菜を入れて煮て、麦ご飯を入れ て、味をつける
い も 団 子	いも、小麦粉、ぬか きな粉	・ いもを煮てつぶし、小麦粉とぬか を混ぜて、粉が煮えるまでとろ火 で混ぜながらつく。団子にして、 きな粉をつける
かぼちゃ団子	かぼちゃ、小麦粉、ぬか きな粉	・ かぼちゃを煮てつぶし、小麦粉と ぬかを混ぜて、粉が煮えるまでと ろ火で混ぜながらつく。団子にし て、きな粉をつける
いもづるの 煮付け	いもづる、しょう油	・ いもづるをゆでて皮をむき、適当 に切ってしょう油でいためる
か た 豆	大豆 海水より濃い塩水	・ 大豆をこがさないように中火でい る ・ 一通り火が通ったら、海水より濃 い塩水をふりかける ・ 水分をすっかり蒸発させる
ふかしパン	炭酸 砂糖(サッカリン) 小麦粉、水、さつまいも 大根の葉、人参の葉	・ 小麦粉、さつまいも、ゆでた大根 の葉や人参の葉と炭酸と水と砂糖 (サッカリン)を混ぜて蒸かす
かぼちゃ煮	かぼちゃ、しょう油	・ かぼちゃを2cm角に切って煮る その後しょう油を加え、かぼちゃ が柔らかくなるまで煮る
い り 豆	大豆	・ カラいりする
かぼちゃ焼き	かぼちゃ、塩	・ 切って焼き、最後に塩をふる

3. 住生活

◆当時よく住んでいた所ベスト3

・当時、このような所によく住んでいた。

戦争中の生活

(兵隊) ~衣食住~

・どんな所に住んでいたか

★1位 ヤシ林に粗木な兵舎(10)

★2位 中国の人も追い出し、その民家を改造(8)

★3位 野宿(4)

★その他) 現地の学校、寺、飛行隊、テント、バトワラ、ヤシ、大部屋、ジャングルハンモック

○兵舎 …… 板ばりの部屋に、テーブルがあり、梁から梁へ釣り床をつて寝た。

(一般)

1位 自宅(12)

2位 病院(2)

その他) 寄宿舍、田舎

家の中

- ・床に防空壕を掘る。(中に非常食も入れた。)
- ・窓がガラスには、壊れてもバラバラにならない糊紙をはった。
- ・夜は、灯火管制のため、電灯に黒い布カーテンをかけた。(不自由)

備えた物

- ・焼夷弾に備え、水溜火たきを置いていた。
- ・防火水そうを造った。
- ・バケツに水を入れておいた。
- ・砂袋をおいていた。

家の外

- ・壁を黒くしたり密着した家は建物疎開といって間をあけた

★その他) 戦争に使える物は仏壇からおひな様まで出し、子供が泣いた。(家の中は何もない。)

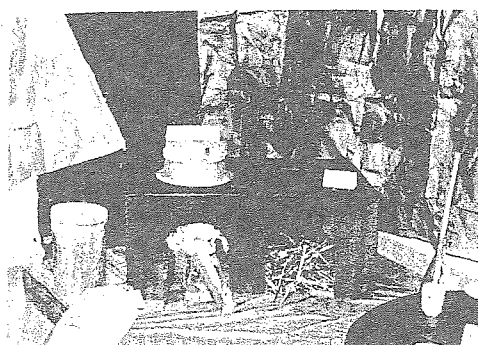
(疎開)

1位 寺(6)

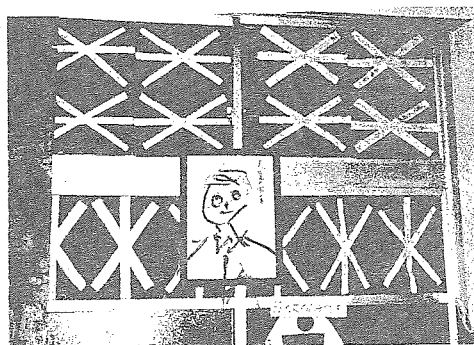
その他) 知り合いの家、近所の人々、立派な家の家、おらや、農家、学校

○道路に軍の施設がみえない様に、壁があった。

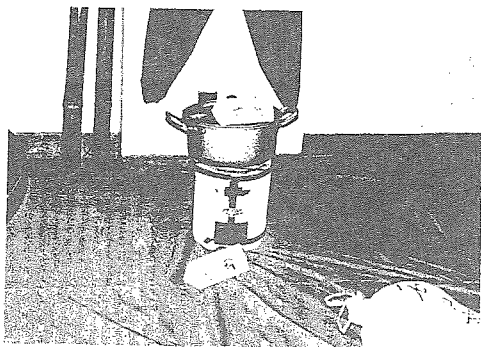
文化祭で展示された「住生活」の模造紙



カマド



窓



◆住生活の実際

兵隊になっていた人の証言

- ・その時々によって変わるが、作戦中は大変だった。野営したり、現地の人の集落がある時は、現地の人が逃げだして空になった家に入って寝たりした。

一般の人の証言

- ・昭和18(1943)年4月に結婚してすぐ移った家は、新築5年目の家だった。家の外側は、周囲は白壁だった。特に道路側は、柱も見えない全面白壁だったが、空襲の目標になるという理由で「迷彩(まだら模様)にせよ」と言われた。そして、ベンガラにススを混ぜたものを塗らされた。二階の部屋が空いていたので、岡山県の津山から広海軍工廠に働きに来ていた女子挺身隊の二人に貸した。
- ・戦争に使えるものは、金属製のものはもちろん、仏壇まで国に供出し、家中は空っぽで道具らしいものは、何もなくなってしまっていた。子供のお雛さんまで出して、子供が泣いたことを思い出す。

●敗戦直後

1. 衣生活

- ・全てに不自由したので、着るものもなく、自分の着物をほどいて子どもの服を作った。赤ちゃんが生まれてもおしめを縫う布がないため、ゆかたをほどいておしめにしていた。

2. 食生活

- ・戦争中以上に食べ物はなく、今ではたくさん生えているよもぎが道端に一つもなかった。今考えると、不思議な気がします。
- ・かぼちゃを一つもらい、めずらしいものなのでどの様に食べるのかいろいろ考えた。でも、どの様にして食べたか、今はおぼえていない。
- ・空襲で丸焼けにならなかったのも、昔の衣服等を農家で米と交換してもらい、それで何とか食いつないでいた。

3. 住生活

- ・小さなバラックに住んでいた。木切れを拾ってきて自分が作っただけなので、やっと人が入れるぐらいの大きさのものだった。
- ・空襲で丸焼けになってしまい、雨をしのぐのに困った。

4. つらかったこと

- ・子どもに食べ物をしっかり食べさせられなかったのが、一番つらい。
- ・敗戦後のどさくさで金融封鎖になった。自分のお金でありながら、自由に使われなかった。何のために苦しい生活をしながら貯金をしたのかと、悔しかった。
- ・戦死された方の遺骨をお迎えする時、遺族の方の心中をお察しすると、何ともいえなかった。
- ・夫が戦死したので、女手一つで4人の子どもを育てるのがつらかった。夜も寝ないで内職（編み物、針仕事、縫い物）したりして、生活におわれる毎日だった。
- ・配給の大豆を食べて消化不良で亡くなった子どもが1人いた。
- ・食糧難のため、栄養失調で父親が亡くなっていた。

- ・終戦になって中国から引き揚げて帰る時、夜通し山を歩き続けた。子どものおしめは、木切れにわたして乾かしながら2人が持って歩いた。中国の人が「子どもをくれ。」と言うので、かくして連れて帰った。何日も歩き続けて、やっと日本に帰る船に乗った時、子どもを連れている人はほとんどいなかった。ほとんどの人が、子どもを死なせたり、途中ではぐれたり、中国人にあげたりした為だった。

5. 楽しかったこと

- ・明るい電灯のもとで一家団欒の時を取りもどしたことが、何物にもかえられない喜びだった。
- ・言語の自由がもどった。

6. その他

- ・昭和20(1945)年10月7日、長浜湾に初めてアメリカ軍が上陸した。この時、ものすごくこわい人が来るということで、若い人は屋根裏や家の戸を全部閉めて顔を見せなかった。言葉も分からないし、こわい思いをした。
- ・終戦となり、日本が負けたというのに悪いようですけれど、空襲警報のない生活に本当にほっとしました。しかし、物資不足は続きました。食糧事情も、言葉では表現できないくらい困難を極めたのは、言うに及ばずでございます。

●生活用語

慰 問 海外にいる日本軍のために、日本から来てなぐさめてくれる歌手等。

医 療 袋 薬などが入っている袋。いつも持ち歩いていた。

学 徒 動 員 小学校の大きい生徒や中学生等が工場へ働きに行かされること。
・旧制女学校の在学中でした。学徒動員命令が下り、勉強しなくてよいので、みんなして喜びました。旧広海軍工廠に配属され、初日には喜び勇んで行きました。ところが、はじめて見る現場（鋳物工場）では、鉄鋼などの金属を溶かした真っ赤などろどろした液体を入れた容器を、クレーンが頭の上を運んで行きました。上を見ればそれが落ちてきそうで、下を見ればやけどしそうです。また、大きな金属音がして、話し声など全く聞こえません。子ども心に「地獄だ。」と思ったとたん、涙が出ました。私達は、人間魚雷の推進器の鋳型を作っていました。隣の機械工場では、魚雷艇が作られていました。私達はそれを見学に行き、仕事に対する認識を新たにしました。それ以後は国のために一生懸命働きました。楽しいはずの青春は、私達にとっては、いつも腹のすいた貧しい灰色の青春でした。卒業式もなにもなく、終戦と同時に荒れ果てた荒廃の社会に放り出され、一番勉強していない世代です。

供 出 金属を溶かして鉄砲の弾を作るため、金、銀、銅で作った物具や花器などの生活用品を軍へただで差し出した。そのため、多くの人が生活に不自由して困った。お雛様まで出して子どもが泣いた。

勤 労 動 員 女性達が武器を作るために工場へ働きに行かされること。

空襲 アメリカの飛行機の攻撃によって、軍事施設だけでなく普通の家も焼かれた。

昭和20(1945)年3月10日 東京大空襲12万人 30万戸

昭和20(1945)年3月14,15日 大阪大空襲 13万戸

空襲警報 B29が襲ってきた時に出される警報。

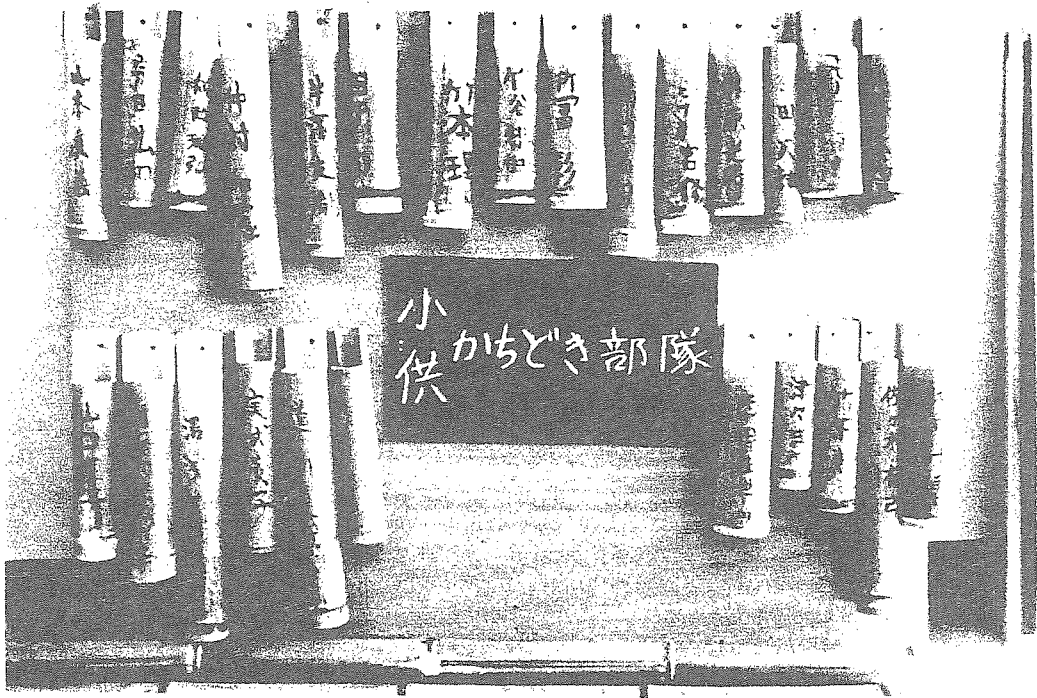
- ・当時、ご飯は「どしかま」で炊いていた。空襲のため、ひどい時には一日に何十回も逃げていた。ご飯を炊いていても途中で火を消して逃げなくてはならないので、食べれるようなものが出来ないことがよくあった。
- ・畑仕事をしていても、外を歩いていても、空襲警報の度に、その場に伏せて動かないでいた。すると、「死んだもの」と思っで見逃していった。子供を連れている時は、子供を腹の下にして伏せたりした。
- ・学校では、警報のサイレンで御真影や教育勅語を避難させた。

黒塗りの壁 昭和時代の家の壁は、主として白色が多かった。白は敵機によく目立つので、目をかすめるために墨で塗って黒くした。まだら模様にすることもあった。

警防婦人会 男は出征（兵隊に行くこと）か工場に働きに行くため、家に残るのは女子と子供だけであった。その婦人達で作った、町の警固をする会のこと。全ての訓練は女子の集団となった。出征兵士の見送りや、慰問袋を作ったりした。

国民学校 国のために役立つ国民を作る学校。

小供かちどき 子ども達が、自分のお小遣いを竹筒にためて、その貯金で
部隊 軍の飛行機を買おうとした。二、三十億円をめざした。



御 真 影 収められた天皇の写真のこと。学校の奥深く収められている。普段はあけてはならない。天皇は神として拝まされた。学校が火事になり、御真影が焼けたため、自殺した校長先生もいた。

集 団 疎 開 空襲をさけるため、都会の子ども達が学校ぐるみで田舎へ行くこと。

出 征 児 童 成人男子は次々と死に、学生も戦場へ行かされた。中三で特攻隊へ行き、多くの若者が死んでいった。

従軍看護婦 女は看護婦として戦場へ送られた。

食 糧 班 働き手の男が戦場へ行ったため、残った人達も武器を作るために働いた。そのため食糧をつくることができにくくなり、国が指定して食糧をつくらせた。

女子挺身隊

工場で働かされた女子学生のこと。

・私はもともと機械工であった。昭和16年6月から「工作研究係」へ移り、後に設計課へ統合された。しかし、仕事はあくまで工作研究で、機械工場とは切っても切れない間柄だった。あちこちへ点在した機械工場へ女子挺身隊が配属されたのは、昭和19年春頃だったと思う。主として県北地方からの女学生だった。モンベに白鉢巻もりりしく、寮舎から隊列を組んで、元気に軍歌をうたって通勤していた。すぐに工作機械の操作を覚えると、単独で部品加工を始め、一昼夜三交替で休みなく働いてくれた。なお、長浜にある「イサ電機」の女主人の三崎さんは、当時呉の精華高女の生徒であったが、挺身隊員として設計課へ配属されており、職場であった横路の説教所で共に終戦の詔勅を聞いた間柄である。

機械工場の係員で海軍技手であった広大新開在住の壇正二氏が、昭和58年6月「第十一海軍航空廠発動機部之記録」を編集発行した。その中に女子動員学徒について次のような名文があるので紹介させていただく。

「動員により、楽しかるべき学窓生活と父母のひざもとを離れ、異郷の無味乾燥な女子寮で粗食に甘んじ、酷暑の昼、厳寒の夜、三交替の激務に奨励、航空機生産の一翼を担った女子学徒のりりしくも可憐な群像は、その行進中の軍歌と共に、私達の脳裏に深く刻み込まれております」

なお、その本には、壇さんの部下のうち、二人の女子挺身隊員（双三実業高校）が感想文を寄せていた。一人は、「寮の大豆御飯がまずく、喉を通らず、無理にのみ込んだ」という話を書いていた。もう一人は、「広の寮の地元の婦人会が正月に餅をくれた」話やトンネル内での作業の話を書き、最後に「挺身隊時代は、私達の青春のひとこまとして懐かしく、また、強烈な思い出があります」と書いてあった。

千人針

出征される兵隊さんの無事を祈って、15の女の4人が真心をこめ赤い糸で一針一針縫いあげた、約70cmくらいのさらし布。（それを兵隊さんのお腹にまいて、敵の弾をよける魔よけとする。）

竹 槍 訓 練 万一敵兵が上陸した場合にそなえ、国防婦人会等が行っていた竹槍でする訓練。銃後の守りとして、敵兵にむかう必殺の技の訓練を日頃うけていた。竹槍は、青竹の先をすどくどがらして、槍のかわりとした。男は出征か工場で、家に残るのは、女子と子供だけであったので、全ての訓練は女子の集団となった。

第11海軍航空廠（広11空廠）

広につくられた海軍の兵器工場のこと。黄幡山の中には、トンネルを掘って地下工場もつくられていた。昭和20(1945)年5月5日の空襲で壊滅的打撃を受けた。現在の米軍基地、及び中国工業研究所の所にあつた。（現在アメリカ陸軍は弾薬庫の集散基地として
いる。）

- ・各地から召集された学徒動員が、モンペイ姿に白いハチマキをして、並んで寮から工廠へ行く行列をよく見た。ガラガラ歩いたり、しゃべったり、つらそうな態度の人は見られなかった。

徴 兵 国が、20才以上の男子を強制的に兵隊にしたこと。はじめは大学生は免除されていたが、後には大学生も学徒出陣した。昭和20(1945)年ごろには、40才や50才の男子も徴兵された。

- ・昭和14(1939)年に徴兵検査を受け、そのまま福山師団に入隊しました。すでに満州事変が始まっており、まもなく太平洋戦争が始まりました。そんな時勢の中で、私は3ヶ月位の訓練後、海外へ送られました。冬季でしたが、夏服を着用させられ、現在の広島港から乗船しました。家族はもちろんのこと、本人にもどこへ行くかは秘密のまま、中支（中部中国）に続き南支（南部中国）へ送られたのです。その後、マレー半島等、中国と南方で昭和18(1943)年まで実戦部隊に在籍していました。ところが、ミンダナオ島で肺結核となり、戦地の病院で3ヶ月位療養しましたが、治らず、病院船で内地（日本）の福山の陸軍病院に輸送されました。広島港を出発してから病気で福山に帰るまでの間、数知れぬほどの死線を越えてまいりました。

福山輸送後は、さらに広島病院に送られ、結核患者として

昭和20(1945)年3月まで療養しました。ここで一応治療済みと診断されて、兵役免除となり、除隊となって現在地の自宅に帰りました。しかし、病気とはいえ、自宅にいと徴用（徴兵のこと）のかかる時代でした。そこで、東京の叔父が軍需工場を営んでいましたので、退院後ただちに東京へ行きました。昭和20(1945)年7月1日、東京で呉空襲の新聞記事が出ました。さっそく帰郷したところ、高所に建っていた一軒家のわが家は焼夷弾で全焼し、あとかたもなくなっていました。幸い防空壕に入っていた家族は全員無事でした。本当にうれしかったです。兄弟3人とも復員して現在も健在でいます。

灯 火 管 制

敵機が襲来した時の目標をつくらないため、電気の光を外にもらさないようにしたこと。

- ・家の電灯に黒い蛇腹の布の覆いをかけ、部屋を暗くしました。窓の外に灯がもれると怒られました。空襲警報が多くなるにつれて、いつも部屋が暗くなり、いっそう惨めな気になってとても嫌でした。

特 殊 爆 弾

(新型爆弾)
(ピカドン)

広島、長崎に落とされた原子爆弾のこと

- ・広島へ原爆が投下されたのは、周知の通り、昭和20(1945)年8月6日午前8時15分である。その時、私は用事があって家へ帰っていた。5月5日のB29による空襲爆撃以来、我々の職場（広第11空廠）は横路の説教所へ疎開していた。しかし、西山のトンネルに機械工場が点在しており、毎日のように横路と西山を行ったり来たりしていた。その行き帰りの途中に家へ帰っていたものと思う。その朝、2階の部屋にいたのだが、突然蒼白い電光が走った。「天気がよいのに雷とは変だな。」と思ったが、その雷がいつまで待っても鳴らない。ますますおかしい。「ではあの稲光は何だったんだ。」と思っている時、突然、ゴーツと今まで聞いた事のないような地鳴りがして、家がミシミシと揺れた。隣の主婦が金切り声をあげて子どもを呼ぶ声が聞こえ、たちまち近所中が騒然としだした。「こうしてはおれない、すぐ帰らなければ。」と言って、私は家

を飛び出した。どんどん急いで長浜峠へ出た時、左の方を見て、思わず「あー。」と声を上げてしまった。休み山の向こうから、真っ白い雲のようなものが広がっている。青空を背景にくっきりと際立って、正に見事とも言えた。私は「広島に違いない。呉がやられて一ヶ月にもなるのに広島が何事もないのは変だと思っていたが、これだったんだ。何か変な物を落とされたに違いない。」と思った。急ぎに急いで職場である横路の説教所へ戻ると、広島が新型爆弾にやられた話でもちきりだった。午後4時頃だったか、長浜へ下宿している同僚の所へ、父親が宇品から歩いて説教所へ面会に来たらしい事がわかった。その父親の話を聞いて、皆、声もなかった。なお、ピカリと光ってドーンと来るまで忘れるほど時間がかかったのか、「どれくらいかかったのか。」と暇に任せて計算してみた。あの時の気温を30度とし、長浜から爆心地までの直線距離を26kmとすると、何と1分14秒もかかった事になった。

隣 組 今でいう、自治会および各班の組織。戦前戦後を通じて、回覧板をまわして連絡をとっていた。

- ・魚、野菜、日用品の配給は、家族の人員数により隣組ごとに配分される。分けるのは班長の役で、特に魚の大きいものは大変だった。と言うのは、配給の魚が一人当たりの重さの人数倍なので、頭と尾の切り分け方に気をつかったからだ。よく文句を言って来られた。
- ・空襲に備えるため、灯火管制に続いて隣組が総出で裏山に防空壕を掘ったものです。少ない食糧のため腹をすかせながらも、皆不平の一つも言わず、長い時間をかけて自分らの命を守るための防空壕を一生懸命協力して完成させた。一応不完全ながらもね。
- ・昭和15(1940)年9月に内務省通達で全国に設置されたと思います。互助組織で、配給切符の配布、国債の割当て、防空演習、勤労作業等を行った記憶があります。隣組の歌ができて、昭和15(1940)年6月19日夜7時半からJOAKラジオで連日放送されました。徳山たまき指導であったと思います。

隣組の歌

岡本一平 作詞

飯田信男 作曲

- | | | |
|---|---|---|
| 1 | トントントンカリと隣組
まわしてちょうだい回覧板 | 格子を開ければ顔なじみ
知らせられたり 知らせたり |
| 2 | トントントンカリと隣組
御飯のたき方 垣根越し | あれこれ面倒 味噌 しょう油
教えられたり 教えたり |
| 3 | トントントンカリと隣組
たがいに役立つ 用心棒
まわしてちょうだい回覧板 | 地震 雷 火事泥棒
助けられたり 助けたり
知らせられたり 知らせたり |
| 4 | トントントンカリと隣組
こころは一つの 屋根の月
まわしてちょうだい回覧板 | 何軒あろうと一所帯
まとめられたり まとめたり
知らせられたり 知らせたり |

徳山たまき 昭和17(1942)年38才で急死、歌手

岡本一平 北海道生まれの漫画家(岡本かの子の夫、岡本太郎の父)

飯田信男 大阪生まれの作曲家

配 給 物が無いので、公平に分配するために、人数や各家にあたるように、分配すること。衣料、食料は全て配給で、長い一列行列を作った。配給所へ切符をもって行って食料等を買っていた。(切符がないと、もらえない。)

・大豆をつぶしたような配給でも、袋をもって並んだ。衣料切符は人員割りで家庭へ配布された。

・油もタバコも券だから、思うように買えなかった。

日の丸弁当 アルマイトの小さな箱に、まん中に梅干しが入っていただけの弁当。ご飯は、麦やいもや大豆がほとんどだった。

防空壕 空襲を避けるために掘った穴。

・毎日2,3名の人が、自分で持っている農具を使って掘った。土砂はカマスに入れ、縄をつけ肩にかけて引き、適当な場所に運んだ。毎日同じことの繰り返しの作業だった。日時を要し、完成しないまま終戦を迎えたところもいくつかあった。

爆風がこないように土ぶくろが入口につんであったが、出入口が1つしかないため煙が入ってきて逃げる所がなく、煙で亡くなった人も多い。中には主に道具、衣類、仏壇等を入れていた。

減私奉公 自分を犠牲にしても、お国のためにつくすこと。「勝つまでは、この職場で働きます。」と誓わされた。

女性たちのスローガン

「ほしがりません勝つまでは」

私利私欲すべてをしりぞけ奉仕する。天皇、皇后のお写真を粗末にならぬようにする。どのように欲しいものがあったても“欲しがりません勝つまでは”と我慢した。

「ぜいたくは敵だ」

戦争で戦っている人に比べ、ここであらしている人は幸せなので、あれがほしいなどのぜいたくはしない、という意味。

「兵隊さんは命がけ 私たちはタスキがけ」

兵隊さんは命がけで戦場でがんばっているの、国防婦人会の私達は、タスキがけをして日本でがんばるという意味。

「女性の職場は勇士の戦場」

「有閑の時を盗む主婦なきや」

「女等と笑った人に 今こそ見せんこの腕前」

「米英の女どもには負けません」

● 年 表

歴 史 年 表

年代	呉 市	日 本	世 界
1886 (明治19)	呉港への民間船入港 制限		
1889 (明治22)	呉鎮守府 開庁 呉海軍 設置 以後 1920 1923,1924,1930,1931,1933 1934,1941,1942年 拡張		
1891 (明治24)	呉鎮守府造船部で水雷艇進水 以後5隻建造		
1894 (明治27)	呉郵便局、軍事郵便取扱局の 指定を受ける		
1897 (明治30)	呉海軍造兵廠 設立 (←呉鎮 守府造船部改める) 以後 軍艦2、砲艦2、水雷艇2、巡洋 艦2 進水 以後 1898年 拡張		
1899 (明治32)	呉市が要塞地帯に指定される		
1902 (明治35)	呉市 誕生		
1903 (明治36)	呉海軍工廠 設立 以後 1904,1906,1909,1910,1912 1920,1921,1923,1926,1927 1929,1935,1936年 拡張 以後 駆逐艦「吹雪」他10 戦艦3、巡洋艦4、潜水艇32、 運送艇2、敷設艇2、給油船2、 特務船3、航空母艦2、水上機		

年代	呉 市	日 本	世 界
1923 (大正12)	母艦4、特殊潜航艇5、人間魚雷2 進水 呉海軍工廠広支廠で練習機完成 以後 1931年 拡張 以後 飛行機14機、飛行艦1機、攻撃機1機 作る 広海軍工廠 設置 (←呉海軍工廠から独立)		
1930 (昭和5)	広村の長浜港 約15000坪 埋め立て完成		
1931		満州事変	
1932		満州国をつくる 五・一五事件 国際連盟を脱退	ドイツでナチスが政権をとる アメリカでニューディール政策開始
1934		中国共産党の大遠征 (~36)	
1936		二・二六事件	フランス・スペインに 人民戦線内閣できる
1937		日中戦争 (~45) 日独伊防共協定 国家総動員法が成立	
1938			
1939			第二次世界大戦 (~45)
1940 (昭和15)	広村大新開に工員養成所 広海軍工廠に徴用工員	日独伊三国条約	
1941 (昭和16)	防諜規定により、公庁・学校 等の写真・絵画禁止 広町の安永新開に工員養成所	太平洋戦争 (~45)	
1944 (昭和19)	重要防空都市疎開地域に指定 呉工廠へ中等学校生徒動員 開始		

年代	呉 市	日 本	世 界
1945 (昭和20)		原子爆弾、広島・長崎 に投下される ソ連が日本に宣戦 8月8日ポツダム宣言受諾 戦争終わる	ヤルタ会談 ドイツが降伏 ポツダム会談 国際連合発足
1947 (昭和22)	呉市立横路中学校 長浜分校 創立		
1948 (昭和23)	呉市立横路中学校 長浜分校 第1回卒業式		
1949 (昭和24)	呉市立長浜中学校 創立		
	呉市立長浜中学校 第1回卒業式		

活 動 記 録

1993 (平成5)	第一学年 入学式	A組 男子16名 女子15名 担 任 大倉新吾 (転出 男子1 転入 女子1)	
		B組 男子15名 女子15名 担 任 保田えり子 (転出 女子1)	担 任 福吉美香
1994	第二学年 進 級	A組 男子15名 女子16名 担 任 大倉新吾 B組 男子15名 女子15名 担 任 保田えり子	学年担任 福吉美香
	長浜・小坪の「第二次大戦体験の聞き書き」に取り組む		
	経 過 6 月	映画「ベトナムのダーちゃん」を鑑賞 ・「知らなかったでは済まされない」という早乙女さんの姿勢に共感	

		・ダーちゃんと同じ思いを持った地域の人々から、自分たちは何も受け継いでいないことに気づき、「その体験や思いを知りたい」と話し合う。 7 月 長浜・小坪の「第二次大戦体験の聞き書き」を行い、文化祭で展示発表する事を話し合い決定 夏 休 み 聞き書きを実施 9 月 聞き書きを整理・学習 10月～11月 聞き書きの整理・学習をもとに、文化祭に向けて展示物を作成 11月16日 文化祭（テーマ「受け継ごう50年目の平和を」 －長浜・小坪の「第二次大戦体験の聞き書き」から－） 11月～12月 聞き書きをもとに、冊子を作成
1996 (平成8)	第三学年 第48回	卒業式（予定）

●生徒感想文から

2年B組 道浦 美代

私達は、「戦争」という課題を今までいく度か勉強してきました。しかし、私達が今住んでいる、ここ小坪・長浜については、ほとんど知りませんでした。

夏休み——今まで知らなかったその小坪・長浜について、私達は聞き書きをすることになりました。私は8軒の家をまわりましたが、どの家の方も親切に、私達が知らなかった事実を丁寧に教えてくださいました。今の私達からは想像もできなかった様な事が、その中にはありました。戦争という、悲さんな事実で、父や母や家族をなくした人、食べる物が何もなくへびや犬まで食べる生活……。 「うそのような事実が、私達の住んでいる、ここ小坪・長浜にもあったんだ。」ということの重大さを改めて感じました。

この聞き書きをした中で、「思い出したくないので話せない。」と言われた方もいました。話の最後に、「頑張ってね。」と、力強く言ってくださった方もいました。その人達の心の中にどんな傷があるのかはよく分かりませんが、戦争の無益さを身をもって体験された方々の苦勞を、今の私達は無駄にしてはいけないのだと思います。

2年B組 池田 千恵

聞き書きをしていると、おばあさんは、自分が体験をしたこわいことやつらかったことを私に聞かせてくれました。「当時、私は先生をしていて、おなかには赤ちゃんがいました。空襲で防空ごうの中にいた時、私とおなかの赤ちゃんのために生徒達がざぶとんをかけてくれました。だけど赤ちゃんは戦争のために死にました。生徒がしてくれたことがうれしかった。」と。

私はすごく悲しくなりました。おなかに赤ちゃんがいて、食べものは十分なくて、苦しい生活だったんだとすごくよく伝わりました。

2年A組 貞広 由香

文化祭当日、みんなが見に来てくれるか、とても不安でした。自分が思っていたよりたくさんの方が来ていました。150人以上の方が来られました。おじいさんおばあさんがとてもよろこんでくれていたので、本当にうれしかったです。

文化祭が終わってみて、いろんな事を学んだと思いました。自分が思っている戦争とちがって、それ以上の苦しみ、悲しみをあじわっていた事が、分かりました。ほんとうに、いい勉強になったと思いました。

2年A組 中原 絵美

「忘れたわあ。」「そんなこと話されんわあ。」などと、一件目から計十件目くらいは断られました。でも、写真を見せてくれたり、その当時の物を見せてくださったりして、すごく一生懸命話をしてくださる方の中にはいらっしゃいました。すごくうれしかったです。泣きながら話をしてくださったおばあさんは、今一人暮らしで、「兄弟は全員戦死した。」と言われました。「気の毒」と言う言葉ではおさまらないくらい、すごくグツとききました。聞き書きをしたおかげで夏休みにすごく成長したと思います。

2年A組 山城 沙季

「長浜にはお年寄りが多い。」と言われているけど、実際聞き書きをしてみると、「当時、私はまだ2、3才ぐらいじゃったけんね。」「私は、まだ生まれてなかったけんね。」などと、戦争を体験した人はなかなかいませんでした。でも、体験した人たちは、少ししかない記憶や二度と思い出したくない当時のことなどを一生懸命に話してくれました。そんなつらい話を聞いて「なんとむざんな出来事なんだろう。もうこんな思いはしたくない。ぜったい……。」と私は心の中で思いました。

2年B組 西田 佳世

話している方たちの顔は、すごく悲しそうでした。「何が悲しかったですか。」と質問すると、「全部。」と言われた方がいました。今のような平和な時代では、そんな戦争の苦しさはあまりピンときませんが、5、6軒家を訪ねてみて何となく分かったような気がします。

2年A組 徳岡 次子

初めて聞き書きに行ったのは、私のおじいちゃんの所からです。順序よく話してくれていたのに、「兵隊に行ったとき楽しかったこと」になると、「そんなのあるわけない。」とつい泣いてしまいました。それが、一番心に残っています。「本当につらかったんだなあ。」と、改めて感じました。 <中略>文化祭の展示のために戦争中の食べ物を作って、食べた人に聞いてみると、「まずい!」という声が返ってきました。防空ごうだって、長浜・小坪にこんなにあるとは知りませんでした。それに、B29が120機以上も来たなんて、全く知りませんでした。私達の身近にもこんなに戦争の傷あとが残っていたとは、思いもしませんでした。

2年A組 谷生 清香

おじいさんやおばあさんに戦争のことについて話してもらい、それをメモしていきました。とてもつらかった事なのに、迷惑な顔ひとつせず、最後まで質問に答えてくれました。広島市内ほど大きな被害はなかったけど、それでもやっぱり家族が亡くなった人はけっこういて、「楽しかった事は?」という質問には、「楽しかった事なんてない。」と答えられる方が多かったです。「家に帰って家族みんなが生きている事がわかった時が一番うれしかった。」と話してくれる人もいました。

2年A組 辻 佳子

聞き書きは、思っていたよりとても時間がかかって苦勞しました。心よく引き受けてくれた人もいたけど、つらく悲しいことを聞くのはやっぱりつらかったです。とても親切な人もいて、とても詳しくていねいに教えてくださいました。話を聞くだけでもつらさやおそろしさが伝わってきました。

2年B組 山本 眞義

聞き書きに行ったんだけど、行く前は「おじいさんもおばあさんも、昔の思い出を語ってくれるだろうか。」と正直言って心配でした。だけど、実際に聞き書きに行ってみると、快くひきうけてくれ、更に、自分が筆を持って書いてくれた人達もおられました。僕とパートナーが最後にお礼を言うと、おばあさ

んは、「もう二度と、あんな苦しいつらい戦争の思い出をこれからの人達に味わって欲しくないけんね。そのために協力したんよ。必ず文化祭を成功させてね。」とおっしゃってくださいました。やはり、おじいさんやおばあさんは本当は思い出したくなかったんだ、と思いました。ある家のおじいさんのように、「何しにあんたらに戦争時代の話をしなきゃならんのな。本で読みゃえーじゃろ。」と怒る人もいました。50年も昔のことでも話せないほどの重いことなんだと思いました。

2年A組 山根 かなえ

聞き書きに協力して下さった方達に話を聞くと、どの方に聞いても、「この話が役に立てばいいけどねえ。」と共通しておっしゃっていました。

「当時を思い出すのは少しつらい。」という方もいたけど、いろんな話をしてくださってとても感謝しました。

2年A組 濱田 英里

どの人達も悲しそうに話したり、涙目になって話してくれて、本当に戦争というものはつらかったということが分かりました。「楽しかったことは」って聞くと、多くの方は「ない。」って悲しそうに答えてくださいました。そんな人達の顔を見ると、さすがに聞きづらかったです。 <中略>

文化祭の日、夏休みに聞き書きをしたお年寄りもきてくださって、じっくり見てくれていました。きっと、お年寄りの人は、戦争のことを思い出したと思います。地図を見ながら（ここで、子をなくした）とか、（この場所でけがをした）とか、いろいろ思い出したのではないのでしょうか。つらいことを思い出したと思います。戦争にあったことないから、私には詳しくは分かりません。だけど、今回のことで本当の戦争のこわさを知りました。このことはきっと忘れてはいけないと思います。今のお年寄りもぜったい忘れてはいません。おそろしすぎるから、忘れようと思っても忘れることができないと思います。だから今度は、私達がおぼえていよう。「戦争というものは、こわくてつらくて二度としてはいけない。」とおぼえていこうと思います。

2年A組 飯田 のぞみ

私たちが聞き書きに訪れた人の中には、九十歳を超える人もいました。耳が遠いために、何度も聞き返しながら答えてくれる人や、わざわざ他の部屋からめがねを持ってきてよく地図を見ながら答えてくれる人や、急におしかけた私たちに嫌な顔もせず答えてくれる人等…。中には、戦争で兄弟を亡くした人もいました。その人たちにとって、肉親を亡くした戦争は思い出したくない思い出なのに、私たちに詳しく、やさしく親切に教えてくださった。 <中略>

なぜ、聞き書きに笑顔で応じてくださったのか、やっと分かったような気がする。きっと、みんなもう二度と戦争をしたくないからこそ、私たちに戦争のすべてを教えてくださったのだと思う。「もう二度と同じ過ちを繰り返さないでほしい。次の世代は平和な世界にしてほしい。」そんな願いが込められていたような気がする。

● 資 料

- ・「聞き書き」で提供していただいた
貴重な資料
- ・「聞き書き」に協力してくださった
方々

1. 聞き書きで提供していただいた 貴重な資料

◆様々な証明書

外地引き揚げ証明書

裏

表

外地引揚証明書	
氏名(年齢)	〇〇〇〇〇〇
本籍地	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
飯郷地	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
右者昭和三十一年一月十五日外地ヨリ浦賀ニ上陸本日出發 セルコトヲ證明ス	
昭和三十一年一月十八日	
厚生省浦賀引揚援護局長	
注意事項	
一、本書ハ受贈證明ニ代モノデカラ飯郷落付先ノ市町村役場ニ提示シ テ轉入ノ手續ヲシテ下サイ	
二、糧食站五日分配給券落付先ノ市町村役場ニ提出シ 全國配給所共通給配ノモノデス	
三、一般配給開始日ハ出發日(前記載日)ヨリ左ノ期日經過ノ翌日ヨリ トス(港區起點)	
(イ)關東	東二日 (ニ)九州五日
(ロ)北陸、東海、近畿	三日 (ホ)北海道七日
(ハ)東北、中國、四國	四日

マラリア罹患証明書

マラリア罹患証明書
 本籍 広島県安芸市東鹿野町四丁目
 現住所 同右
 所属 第十二飛行団司令部
 部隊名
 官等 級
 代名
 内地港湾 昭和十九年八月二日
 出發年月日
 戰地到着 昭和十九年八月五日
 年月日
 初發病 地 昭和十九年十月二十日
 初發病 地 南京
 年月日
 右證明人
 昭和二十一年一月十八日
 石子生 省浦加貝引揚振工局
 医官 飯島修

兵食給与停止
 証明書

兵食給与停止証明書
 所屬部隊 第十二飛行団司令部
 (職)氏名
 年月日
 性別
 其他
 昭和二十一年一月十八日
 右ノ者第十二飛行団司令部ニ於テ兵食給与中ノトコロ
 昭和二十一年一月十八日轉出ニ付テ昭和二十一年
 一月十八日食限リ兵食給与停止セシコト
 ヲ説明ス
 昭和二十一年一月十八日
 浦賀上陸地支局長

◆臨時召集令状

表

運賃支拂部除

官衙

本郷聯隊區司令部



氏名	車種	乗車(船)等級	運賃	乗車(船)日
氏名	自	自	自	昭和 年 月 日
氏名	自	自	自	昭和 年 月 日
氏名	自	自	自	昭和 年 月 日

臨時召集應召員旅客運賃後拂證

氏名	車種	乗車(船)等級	運賃	乗車(船)日
氏名	自	自	自	昭和 年 月 日
氏名	自	自	自	昭和 年 月 日
氏名	自	自	自	昭和 年 月 日

本郷聯隊區司令部



氏名	車種	乗車(船)等級	運賃	乗車(船)日
氏名	自	自	自	昭和 年 月 日
氏名	自	自	自	昭和 年 月 日
氏名	自	自	自	昭和 年 月 日

臨時召集令状

裏面記載事項ニツキ熟讀スベシ

裏

罰則	地位ノキトルア故事テシ員召應	得心員召應
一、	一、	一、
二、	二、	二、
三、	三、	三、
四、	四、	四、
五、	五、	五、
六、	六、	六、
七、	七、	七、
八、	八、	八、
九、	九、	九、
十、	十、	十、
十一、	十一、	十一、
十二、	十二、	十二、
十三、	十三、	十三、
十四、	十四、	十四、
十五、	十五、	十五、
十六、	十六、	十六、
十七、	十七、	十七、
十八、	十八、	十八、
十九、	十九、	十九、
二十、	二十、	二十、
二十一、	二十一、	二十一、
二十二、	二十二、	二十二、
二十三、	二十三、	二十三、
二十四、	二十四、	二十四、
二十五、	二十五、	二十五、
二十六、	二十六、	二十六、
二十七、	二十七、	二十七、
二十八、	二十八、	二十八、
二十九、	二十九、	二十九、
三十、	三十、	三十、
三十一、	三十一、	三十一、
三十二、	三十二、	三十二、
三十三、	三十三、	三十三、
三十四、	三十四、	三十四、
三十五、	三十五、	三十五、
三十六、	三十六、	三十六、
三十七、	三十七、	三十七、
三十八、	三十八、	三十八、
三十九、	三十九、	三十九、
四十、	四十、	四十、
四十一、	四十一、	四十一、
四十二、	四十二、	四十二、
四十三、	四十三、	四十三、
四十四、	四十四、	四十四、
四十五、	四十五、	四十五、
四十六、	四十六、	四十六、
四十七、	四十七、	四十七、
四十八、	四十八、	四十八、
四十九、	四十九、	四十九、
五十、	五十、	五十、
五十一、	五十一、	五十一、
五十二、	五十二、	五十二、
五十三、	五十三、	五十三、
五十四、	五十四、	五十四、
五十五、	五十五、	五十五、
五十六、	五十六、	五十六、
五十七、	五十七、	五十七、
五十八、	五十八、	五十八、
五十九、	五十九、	五十九、
六十、	六十、	六十、
六十一、	六十一、	六十一、
六十二、	六十二、	六十二、
六十三、	六十三、	六十三、
六十四、	六十四、	六十四、
六十五、	六十五、	六十五、
六十六、	六十六、	六十六、
六十七、	六十七、	六十七、
六十八、	六十八、	六十八、
六十九、	六十九、	六十九、
七十、	七十、	七十、
七十一、	七十一、	七十一、
七十二、	七十二、	七十二、
七十三、	七十三、	七十三、
七十四、	七十四、	七十四、
七十五、	七十五、	七十五、
七十六、	七十六、	七十六、
七十七、	七十七、	七十七、
七十八、	七十八、	七十八、
七十九、	七十九、	七十九、
八十、	八十、	八十、
八十一、	八十一、	八十一、
八十二、	八十二、	八十二、
八十三、	八十三、	八十三、
八十四、	八十四、	八十四、
八十五、	八十五、	八十五、
八十六、	八十六、	八十六、
八十七、	八十七、	八十七、
八十八、	八十八、	八十八、
八十九、	八十九、	八十九、
九十、	九十、	九十、
九十一、	九十一、	九十一、
九十二、	九十二、	九十二、
九十三、	九十三、	九十三、
九十四、	九十四、	九十四、
九十五、	九十五、	九十五、
九十六、	九十六、	九十六、
九十七、	九十七、	九十七、
九十八、	九十八、	九十八、
九十九、	九十九、	九十九、
一百、	一百、	一百、

意注ノ上用使證排後貨運客旅
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
一百、

◆軍隊手帳（陸軍）

本訓 其の一

第一 皇國

大日本は皇國なり。萬世一系の天皇上に在します。皇國の皇謨を紹繼して無窮に君臨し給ふ。皇恩萬民に遍く、聖德八紘に光被す。臣民亦忠孝勇武祖孫相承け、皇國の道義を宣揚して天業を翼賛し奉り、君民一體以て克く國運の隆昌を致せり。

戦陣の將兵、宜しく我が國體の本義を體得し、牢固不拔の信念を堅持し、誓つて皇國守護の大任を完遂せん

軍隊手牒ニ係ル心得

一 軍隊手牒ハ軍人ノ常ニ服膺スヘキ勅諭勅語ヲ掲載スルヲ以テ最モ丁寧ニ取扱ヒ苟モ汚穢破損スヘカラサルハ勿論各自ノ履歷ヲ掲ケ且轉隊派遣等ニ際シ金錢物品ノ受授ヲ證スルモノナレハ大切ニ所持シ紛失セサル様注意スヘキ事

二 一身上ノ履歷ニ關スル事項并給與通報事項ニ記注シタル金錢物品受授其他ノ事項ニシテ事

十六

陸

軍

履

歴

西北方高地附近戦斗終テ前額部砲弾破片創ニ依リ戦死

昭和拾七年 参月廿八日 戦死

病或戦死

同日夏第九八三部隊峰松隊編入。同日是日歸隊完結。夏作命第一號ニ依リ上月十三日公山山麓。上月西白雲山港出發。上月十九日基隆港上陸。同日台北州宜蘭郡員山山麓。上月廿五日員山山麓。同上月廿六日河濱。上月廿七日高雄出發。昭和七年一月八日馬場リシガエニ渡リテンプラエ陸。同日サンズピアに着。一月八日デルピアに着。二月廿日任陸軍衛生伍長。同日第一隊本部附。三月廿日任陸軍衛生軍曹。同日呂宋島バタア川リヤング

二十一

陸

軍

2 聞き書きに協力してくださった方々

氏 名 (年令)	住 所	聞き書きをした生徒
2 年 A 組		
山岡 ヨシ子 (68)	広小坪 1 丁目 42-11	飯田のそみ、岡田 愛子
山中 ハツセ (84)	広小坪 1 丁目 58- 1	飯田のそみ、岡田 愛子
永浜 森一 (72)	広小坪 1 丁目 37- 3	飯田のそみ、岡田 愛子
谷口 誠一 (76)	仁方錦町 18-12	飯田のそみ、岡田 愛子
川岡 義信 (76)	広小坪 1 丁目 64-16	飯田のそみ、岡田 愛子
元田 顕二 (70)	広小坪 1 丁目 61-16	飯田のそみ、岡田 愛子
長岡 スミエ (72)	広小坪 1 丁目 63- 1	池田 通子、萬谷 梨恵
土本 豊子 (71)	広小坪 1 丁目 73- 9	池田 通子、萬谷 梨恵
小松 光恵 (74)	広小坪 1 丁目 14- 8	池田 通子、萬谷 梨恵
大石 沢人 (82)	広小坪 14- 5	池田 通子、萬谷 梨恵
池田 満 (74)	広小坪 1 丁目 38- 2	池田 通子、萬谷 梨恵
池田 清子 (66)	広小坪 1 丁目 38- 2	池田 通子、萬谷 梨恵
長岡 ハナヨ (80)	広小坪 1 丁目 63-12	池田 通子、萬谷 梨恵
山中 歌子 (72)	広小坪 1 丁目 32- 8	越智真奈美、濱田 英里、横道みゆき
松岡 ユク江 (58)	広小坪 1 丁目 47- 1	越智真奈美、濱田 英里、横道みゆき
植木 盛登 (83)	広小坪 1 丁目 4- 7	越智真奈美、濱田 英里、横道みゆき
西本 数三 (75)	広小坪 1 丁目 2-11	越智真奈美、濱田 英里、横道みゆき
大田 英雄 (60)	広小坪 2 丁目 3- 2	越智真奈美、濱田 英里、横道みゆき
新田 辰雄 (66)	広小坪 1 丁目 5-12	越智真奈美、濱田 英里、横道みゆき
松本 武夫 (81)	広小坪 1 丁目 2- 7	越智真奈美、濱田 英里、横道みゆき
岡本 水子 ()	広小坪 1 丁目 20-12	角野 育子、中原 絵美
沖田 正輝 (65)	広小坪 1 丁目 38-17	貞廣 由香、辻 佳子
土取 ヨシ子 (67)	広長浜 4 丁目 10-11	谷生 清香、長浜 朱美、山城 沙季
荒谷 政俊 (75)	広長浜 3 丁目 14-44	谷生 清香、長浜 朱美、山城 沙季
向井 友行 (73)	広長浜 4 丁目 13- 3	徳岡 次子、山根かなえ
魚住 下枝 (80)	広長浜 5 丁目 1- 9	徳岡 次子、山根かなえ
森岡 マツエ (85)	広長浜 5 丁目 9-14	徳岡 次子、山根かなえ
木村 広道 (82)	広長浜 5 丁目 10-30	徳岡 次子、山根かなえ

氏 名 (年令)	住 所	聞き書きをした生徒
木村 澄子(65)	広長浜4丁目 7- 2	徳岡 次子、山根かなえ
立石 秋三(76)	広長浜4丁目 6-14	徳岡 次子、山根かなえ
徳岡 徳義(91)	広長浜2丁目13-28	徳岡 次子、山根かなえ
石田 ゆき(76)	広小坪1丁目	石垣 誠、佐々木亮介
中田 繁子(66)	広小坪1丁目20-17	石垣 誠、佐々木亮介
西田 正秋(80)	広長浜1丁目 8- 6	尾屋家勇氣、秦 宏和
西田 松之(72)	広長浜1丁目 8- 6	尾屋家勇氣、秦 宏和
浜田 美都子(77)	広長浜5丁目 6-15	尾屋家勇氣、秦 宏和
浜谷 順次(68)	広小坪1丁目38-15	小島 一兵、山田 真
矢野下伝三郎(88)	広長浜3丁目14-35	河野 真典、中村 潤、林 大介
匿名		新田 洋介、広井 隆明
藤脇 康夫(52)	広津久茂町 8- 5	藤脇 祐二、益田 龍二
匿名		三原 広志、三好 耕平
浜田 種三(74)	広小坪1丁目58- 4	三原 広志、三好 耕平
此本 四郎(60)	広小坪1丁目49- 3	三原 広志、三好 耕平
2 年 B 組		
門田 サナエ(61)	広小坪2丁目 6-10	碓井 絃美、實成 貴子
松本 武夫(81)	広小坪1丁目 2- 7	碓井 絃美、實成 貴子
西本 数三(75)	広小坪1丁目 2-11	碓井 絃美、實成 貴子
河内 ヨシエ(80)	広長浜4丁目10- 6	池田 千恵、山口 慶子
山口 春雄(76)	広小坪4丁目 4-13	池田 千恵、山口 慶子
山口 富士子(69)	広小坪4丁目 4-13	池田 千恵、山口 慶子
尾原 シヅヨ(87)	広長浜4丁目 7-13	池田 千恵、山口 慶子
河野 チズコ(64)	広長浜4丁目14-39	池田 千恵、山口 慶子
池田 秀登(79)	広長浜4丁目12-10	池田 千恵、山口 慶子
萩原 貢(65)	広長浜4丁目14-36	池田 千恵、山口 慶子
津々 正人(74)	広長浜1丁目14-31	津々 まや、湯浅 薫
津々 トミエ(68)	広長浜1丁目14-31	津々 まや、湯浅 薫
藤井 サトノ(66)	広長浜1丁目11- 2	津々 まや、湯浅 薫
藤井 政夫(71)	広小坪1丁目 7- 6	津々 まや、湯浅 薫
高島 文三(62)	広小坪	津々 まや、湯浅 薫

氏 名 (年令)	住 所	聞き書きをした生徒
高 島 文 三 (6 2)	広小坪	津々 まや、湯浅 薫
横 島 友 子 (6 1)	広長浜 1 丁目 7-13	津々 まや、湯浅 薫
高 島 修 和 ()	広長浜 1 丁目 3- 7	津々 まや、湯浅 薫
松 田 勇 (6 1)	広小坪 2 丁目 7-11	佐々木有弓、西田 佳世、藤嶋 麻由
栴 山 義 政 (7 1)	広小坪 1 丁目61-31	佐々木有弓、西田 佳世、藤嶋 麻由
青 野 幸 子 (6 1)	広小坪 2 丁目 7- 3	佐々木有弓、西田 佳世、藤嶋 麻由
西 田 整 (6 4)	広小坪 2 丁目 6- 5	佐々木有弓、西田 佳世、藤嶋 麻由
篠 原 良 子 (6 4)	広小坪 2 丁目 2- 7	佐々木有弓、西田 佳世、藤嶋 麻由
峠 つ き え (6 3)	広小坪 1 丁目44-11	古屋 智子、由良 瞳
山 岡 重 王 (6 8)	広小坪 1 丁目42-11	古屋 智子、由良 瞳
平 山 一 夫 (6 8)	広小坪 1 丁目38-10	古屋 智子、由良 瞳
平 山 智 恵 子 (6 3)	広小坪 1 丁目38-10	古屋 智子、由良 瞳
半 田 ハ ツ エ (7 7)	広小坪 1 丁目 4-15	古屋 智子、由良 瞳
平 岡 ト ヨ ノ (8 1)	広小坪 1 丁目17- 9	古屋 智子、由良 瞳
岡 本 ハ ヤ コ (8 2)	広小坪 1 丁目 5-10	古屋 智子、由良 瞳
岡 本 義 春 (7 1)	広小坪 1 丁目 5-10	古屋 智子、由良 瞳
岡 本 文 枝 (6 3)	広小坪 1 丁目 5-10	古屋 智子、由良 瞳
土 本 学 (7 6)	広小坪 1 丁目63-26	古屋 智子、由良 瞳
新 田 芳 子 (5 8)	広小坪 1 丁目 5-13	道浦 美代、平尾 江美
村 井 テ ル ミ (6 1)	広小坪 1 丁目17-15	道浦 美代、平尾 江美
宮 川 市 三 (7 2)	広小坪 1 丁目 5-11	道浦 美代、平尾 江美
半 田 ハ ツ エ (7 7)	広小坪 1 丁目 4-15	道浦 美代、平尾 江美
浜 本 清 子 (6 8)	広小坪 1 丁目19-18	道浦 美代、平尾 江美
新 田 辰 雄 (6 6)	広小坪 1 丁目 5-12	道浦 美代、平尾 江美
川 本 フ シ 子 (6 6)	広小坪 1 丁目 4-23	道浦 美代、平尾 江美
宮 田 清 太 (7 0)	広小坪 1 丁目 5-13	道浦 美代、平尾 江美
中 井 文 雄 (7 6)	広長浜 3 丁目10-28	竹下 恵、吉本 千夏
石 井 克 義 (7 3)	広長浜 3 丁目10-19	竹下 恵、吉本 千夏
竹 下 一 彦 (7 3)	広長浜 3 丁目 6- 3	竹下 恵、吉本 千夏
尾 茂 田 隆 (6 6)	広津久茂町 8- 4	竹下 恵、吉本 千夏
藤 本 幸 信 (6 9)	広津久茂町 1-26	竹下 恵、吉本 千夏

氏 名 (年令)	住 所	聞き書きをした生徒
藤 本 幸 信 (6 9)	広津久茂町 1-26	竹下 恵、吉本 千夏
滝 口 敏 江 (7 3)	広津久茂町 1-48	竹下 恵、吉本 千夏
池 庄 司 ト ミ 子 (6 6)	広長浜 3 丁目 12-21	竹下 恵、吉本 千夏
藤 本 昭 博 (6 5)	広津久茂町 7-15	竹下 恵、吉本 千夏
橋 村 忠 人 ()	広長浜 5 丁目 2- 3	青木 等、荒本 直樹
橋 村 サ ツ エ (6 6)	広長浜 5 丁目 2- 3	青木 等、荒本 直樹
飯 沼 義 信 (7 5)	広長浜 2 丁目 6- 1	青木 等、荒本 直樹
石 田 文 子 (6 6)	広長浜 2 丁目 2-14	青木 等、荒本 直樹
石 井 浪 夫 (8 0)	広長浜 3 丁目 14-61	青木 等、荒本 直樹
鈴 木 ハ ル ヨ (8 1)	広長浜 3 丁目 15-46	石田 大輔、宇都宮 修
宇 都 宮 靖 一 (8 2)	広長浜 3 丁目 7- 8	石田 大輔、宇都宮 修
上 藤 俊 光 (6 4)	広長浜 2 丁目 11-16	石田 大輔、宇都宮 修
新 田 瞳 (8 0)	広小坪 1 丁目 14- 6	竹本 理、田中 彰
浜 元 好 夫 (4 7)	広小坪 1 丁目 38-28	竹本 理、田中 彰
福 間 義 勝 (4 3)	広小坪 1 丁目 37-23	竹本 理、田中 彰
北 倉 武 春 (6 2)	広小坪 1 丁目 37-10	竹本 理、田中 彰
松 本 ト キ ミ (8 5)	広小坪 1 丁目 22- 7	竹本 理、田中 彰
石 田 ユ キ (7 7)	広小坪 1 丁目 5-13	竹本 理、田中 彰
浜 中 和 之 (6 2)	広小坪 1 丁目 12-46	竹本 理、田中 彰
碓 氷 紘 美 (8 1)	広小坪 1 丁目 36-18	猪原 光昭、仲村 和憲、船越 雅弘
柳 尾 美 和 子 (6 6)	広小坪 1 丁目 2-52	猪原 光昭、仲村 和憲、船越 雅弘
山 崎 良 子 (7 3)	広長浜 3 丁目 7- 6	宗田 法和、山本 真義
山 崎 サ ツ エ (7 5)	広長浜 2 丁目 12-13	宗田 法和、山本 真義
西 本 好 文 (6 7)	広長浜 1 丁目 7-11	宗田 法和、山本 真義
吉 田 仁 彦 (5 9)	上畑町 6-47	宗田 法和、山本 真義
西 田 ハ ル エ (7 6)	広長浜 1 丁目 7-14	宗田 法和、山本 真義
刈 山 年 雄 (7 0)	広長浜 4 丁目 14-16	宗田 法和、山本 真義
匿 名		新口 浩司、竹谷 智樹
石 井 波 夫 (8 0)	広長浜 3 丁目 14-61	新富 彰、半澤 友胤

お　わ　り　に

生まれ育った長浜・小坪の「第二次大戦体験の聞き書き」で衝撃を受けた生徒達は、「自分たちが知り得、託されたものを、自分たちのためだけでなく後輩達に伝えるためにもぜひ記録として残したい。」と願いました。そして、「聞き書き」を整理し、まとめたのがこの冊子です。貴重な証言だから全てを残したい、という方針で編集しました。「中学生が行った一つの地域の聞き書きの記録」という性格上、当時を総合的に知るためには確かに一面的であり不十分でもあります。しかし、読み返すにつけ、戦争が強いた犠牲の大きさと、その上に築かれた平和の重みをしみじみと実感します。

「聞き書き」では、延べ131人の方に快く御協力いただきました。本当に有難うございました。また、11月16日付朝日新聞に記事が掲載されたこともあり、文化祭には、150人以上の地域の方々がお忙しい中展示を見学くださいました。改めて御礼申し上げます。「聞き書き」に協力してくださったのは70代が最も多く、ほとんどが60代以上の方です。この時にはお元気でありながら、三ヶ月後の今、すでに何人かが亡くなられています。「受け継ごう50年目の平和を」という生徒達の決意を御報告しながら、謹んで御冥福をお祈りいたします。

1995年（平成7年）1月15日

編 集 者　大 倉 新 吾
保 田 え り 子
福 吉 美 香

「受け継ごう50年目の平和を」

ー長浜・小坪の「第二次大戦体験聞き書き」からー

1995年1月15日 印刷

編 集

大倉 新吾
保田えり子
福吉 美香

印 刷

学 校 印 刷
印刷紙・大王製紙 寸法257×364mm
連重〈6〉kg

製 本

二 葉 孔 版

発行所

呉市立長浜中学校

〒737-01 呉市広長浜4丁目1番9号

☎ (0823)71-7920

